

観光教育のモデル授業検証・普及事業 報告書

平成31年3月

国土交通省観光庁

観光産業課観光人材政策室

目次

1. 業務の目的	1
2. 業務の内容	6
(1) モデル授業実践校の選定	7
①モデル授業実践校の募集	7
②モデル授業実践校の選定	17
(2) 本業務に関する説明会等の実施	18
(3) モデル授業の実践・効果検証・ブラッシュアップ	22
①モデル授業の実践	22
②モデル授業の効果検証	35
③モデル授業のブラッシュアップ	40
(4) 成果報告会の開催	41
(5) モデル授業の実践事例集のとりまとめ及び普及に向けた効果的な情報発信（広報）	50
3. まとめ	522

1. 業務の目的

観光庁は、初等・中等教育段階の子どもたちに、日本各地の魅力的な観光資源や今後さらに増加する観光需要等について伝え、わが国の成長戦略の柱であり地方創生の切り札である観光分野の理解を促し、観光産業への興味関心を喚起するための観光教育の充実を図る取組を進めている。

2017年度は、「観光教育に関する調査事業」を実施し、観光教育に関する実践事例についての調査を行うとともに、総合的な学習の時間等を想定したモデル授業のガイドラインとして、「モデル授業案」（以下の図表・1及びP.3～P.5に掲載）を構築したところである。

本業務では、モデル授業の実践校を選定し、「モデル授業案」をもとに各実践校に合った観光教育のプログラムを作成し、その実践を通じてモデル授業案の実用性や効果の検証を行うとともに、今後の観光教育普及に向けた事例構築及び広報活動を行った。

図表・1 2017年度に構築したモデル授業案の3つのステップ

<モデル授業案①>

段階	テーマ	目的・授業内容
導入	観光とは何か、観光の重要性を学ぶ。地域の観光の魅力に気づく、知る。	観光の定義、日本の観光動向を学ぶとともに、自分が住むまちの観光の魅力に気づき、学ぶ機会とする。グループワークにより気づいた内容について話し合い、発表&意見交換を行う。

<モデル授業案②>

展開	地域の課題を見つけるために調査を実施し、結果を分析して解決策を考察する。	自分が住む地域の光る資源や魅力、観光に係る課題を見つけるために調査を実施し、調査結果を分析・考察して取りまとめる。 <小学生>・成果：「地域の光る資源及びその理由」 <中学生・高校生>・成果：「地域の魅力と課題及びその理由」
----	--------------------------------------	--

<モデル授業案③>

応用	地域の課題に対して具体的な解決策を考えて実践する。	自分が住むまちの課題（地域の衰退、高齢化、地場産業の減少等）に対する解決策の企画を考えると同時に、実現に向けて外部協力者との調整を図るなど、準備・調整を行う。 最後には企画を実践するとともに、その振り返りにより、自分たちが取り組んだことによる成果と未達だったことを分析する。 成果報告会の企画・運営も行い、自分たちの成果の発信方法についても自ら考える。 <小学生>・成果：「観光案内マップ」 <中学生>・成果：「地域の課題を解決する具体的な方策」 <高校生>・成果：「地域の課題を解決するビジネス視点の方策」
----	---------------------------	---

モデル授業の実践にあたっては、2017年度の報告書の「6.今後の展望」において取りまとめたとおり、初めて観光教育に取り組む学校にとっては様々なハードルが生じることも想定されるため、教育現場に新たな負担を増やすことにつながらないように配慮する必要がある。また、観光教育を導入する動機付けとして、児童・生徒の自主性や探究心を育むことや他教科の学びを深化させる等の教育的観点から見た効果についても、教員に理解してもらうことが重要である。

そのため、本事業では、観光教育モデル授業の積極的な導入を検討している学校への支援（専門家の派遣や効果の検証等）、観光教育の実践によって得られる学びの効果について情報発信を行うこととした。

まず、「モデル授業案」の【導入編】、【展開編】、【応用編】のそれぞれについて検証できるように、各段階の「モデル授業案」の実践にふさわしい学校（以下、実践校）を募集、選定した。次に、実践校に対し観光教育に詳しい有識者を派遣し、説明会および各2回の指導会を開催した。さらに、実践校の事例をもとに観光教育の進め方や児童・生徒の変化等について検証し、成果報告会において本業務の結果を広く発信した。

図表・2 2017年度に構築したモデル授業案の考え方・方針

- | |
|--|
| <p>方針1：観光教育のすそ野拡大を重視</p> <p>方針2：子どもの主体性、探究心、地域参画等を重視したもの</p> <p>方針3：取り組んだことが課題解決につながる等、役に立っている実感が得られるもの</p> <p>方針4：地域との関わりを重視したもの</p> <p>方針5：教員の意識改革、負担軽減につながるもの</p> |
|--|

モデル授業案①導入：観光とは何か、観光の重要性を学ぶ。地域の観光の魅力に気づく、知る。

項目	座学・調べ学習	講演	グループワーク
テーマ	観光に関する基礎情報、地域の特徴等を学ぶ	地域の観光に関わる仕事をしている外部人材の講演	自分の都道府県に観光客（インバウンド等）が増えている（又は減っている）理由、地域の特徴とその理由等について話し合う
授業内容	<ul style="list-style-type: none"> ○観光客・観光の定義 <ul style="list-style-type: none"> ・観光客はどのような人？ ・観光とは何を意味するのか？ ・観光はなぜ重要なのか？ ○観光の形態 <ul style="list-style-type: none"> ・人はどのように観光するのか？ ○自分のまちの魅力 <ul style="list-style-type: none"> ・自分のまちの自然、歴史、文化、料理、祭り、イベント等 ・何が観光客を自分のまちに引き寄せせるのか？ ○自分のまちの観光動向 <ul style="list-style-type: none"> ・人口動向 ・産業構造 ・観光政策の状況等 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分のまちに関する講演 <ul style="list-style-type: none"> ・役場の観光課、観光協会等により、地域の魅力に関する講演会を開催する。 [高校生を主に想定] ○観光における雇用に関する講演 <ul style="list-style-type: none"> ・地域の旅行代理業、宿泊業等の観光産業関連者により、観光産業の仕事がどのようなものかについて講演会を開催する。 	<ul style="list-style-type: none"> [小学生（4年生以上）を主に想定] ○自分の都道府県に観光客（インバウンド等）が増えている（又は減っている）理由、地域の特徴とその理由等について話し合う。 [中学生を主に想定] ○自分の都道府県に観光客（インバウンド等）が増えている（又は減っている）理由、地域の特徴とその理由等について話し合う。／自分たちのまちの課題について考える。 [高校生を主に想定] ○自分の都道府県に観光客（インバウンド等）が増えている（又は減っている）理由、地域の特徴とその理由等について話し合う。／自分たちのまちの課題について考え、原因の仮説を立てる。
教材・副読本	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科の教科書 ・出版物（図書、観光関連雑誌等） ・観光庁の各種統計データ ・関係自治体の各種統計データ 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材（役場の観光課、観光協会、NPO等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・観光パンフレット ・出版物（図書、観光関連雑誌等） ・観光庁の各種統計データ ・関係自治体の各種統計データ
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ノート ・授業内での発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・講演に対する感想文 ・講演に対する感想文の発表 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをまとめた模造紙、パワポ ・授業内での発表

モデル授業案②展開：地域の課題を見つけるために調査を実施し、結果を分析して解決策を考察する。

項目	グループワーク①（調査方法の検討）	現地調査	グループワーク②（調査結果の分析・考察）
テーマ	地域の観光課題を見つけるための調査を計画する	調査を実施し、地域の観光課題を見つける	調査結果を分析・考察して取りまとめる
授業内容	<p>[小学生（4年生以上）を主に想定]</p> <p>○現地調査の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の知識や経験、地図、観光パンフレット等を活用して、「地域の光る資源」をリストアップする。 リストアップした資源の調査計画（調査項目、調査対象、調査方法、役割分担、行程等）を作成する。 選んだ資源と理由、調査計画を発表する。 <p>[中学生・高校生を主に想定]</p> <p>○現地調査の計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の知識や経験、地図、観光パンフレット、外部人材の講演等も活用して、「地域の魅力と課題」をリストアップする。 地域の魅力と課題に関する調査計画（調査項目、調査対象、調査方法、役割分担、行程等）を作成する。 地域の魅力と課題、理由及び調査計画を発表する。 	<p>○現地調査の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査計画に基づき、現地踏査、関係者へのインタビュー等を行い、特徴、気づいたこと、地域内外の人に知って欲しいこと等を調べる 	<p>[小学生（4年生以上）を主に想定]</p> <p>○現地調査の分析・考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果を分析し、地域の光る資源について取りまとめる。 地域の資源が現在観光客にとって魅力である（又は魅力ではない）理由、今後更に観光客を引き付けるためのアイデアを考察する。 <p>[中学生・高校生を主に想定]</p> <p>○現地調査の分析・考察</p> <ul style="list-style-type: none"> 調査結果を分析し、地域の魅力と課題、その理由について取りまとめる。 地域の課題を解決するためのアイデアについて考察する。
教材・副読本	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いをまとめた模造紙、パワポ 授業内での発表 	<ul style="list-style-type: none"> 調査計画書 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート記録 インタビュー記録
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> 調査計画書 アンケート用紙 インタビュー用紙 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート記録 インタビュー記録 	<ul style="list-style-type: none"> 調査報告書

モデル授業案③応用：地域の課題に対して具体的な解決策を考えて実践する。

項目	グループワーク	地域での意見交換・営業活動・実践	成果発表・表彰
テーマ	既存資料や調査結果を基に地域の課題の解決方法を考える	地域関係者の意見を踏まえて地域での実践やビジネスとしての可能性を考える	意見交換や実践の結果をとりまとめて発信する
授業内容	<p>[小学生（4年生以上）を主に想定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「観光案内マップ」の作成 <ul style="list-style-type: none"> ・自分の知識や経験、地図、観光パンフレット、及び現地調査で調べたこと等を地域やテーマ毎に整理・分類し、地図上に分かりやすくまとめる。 <p>[中学生を主に想定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域の課題を解決する具体的な方策」の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・観光体験、クリーン作戦、PR、イベント、勉強会、観光ガイド等（自分たちだけで実現できることを重視）を考える。 ○実践に向けた企画・準備 <ul style="list-style-type: none"> ・方法を実現するための具体的な企画を考える（目的、プログラム、スケジュール、外部協力者の調整等） <p>[高校生を主に想定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「地域の課題を解決するビジネス視点の方策」の検討 <ul style="list-style-type: none"> ・地元とコラボしたモデルツアーの実施、特産品開発、特産品の販路開拓、PR、イベント、観光ガイド等を考える。 ○実践に向けた企画・準備 <ul style="list-style-type: none"> ・方法を実現するための具体的な企画を考える（目的、プログラム、スケジュール、外部協力者の調整等） 	<p>[小学生（4年生以上）を主に想定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元関係者への報告・PR 及び意見交換 <ul style="list-style-type: none"> ・観光ボランティア等、実際に地域で観光案内を担う立場の方から、日頃の取組の様子を教えてください。 ・作成した「観光案内マップ」について、地域関係者（役場、観光事業者、NPO、観光ボランティア等）へ報告・PR <p>[中学生・高校生を主に想定]</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域関係者への営業活動 <ul style="list-style-type: none"> ・考えた企画を地域関係者（役場、観光事業者、NPO等）へ報告・PR/連携する事業者との合意 ・解決策を実現するための準備（資材・備品等の準備、役割分担、外部への協力依頼等）を進める ○解決策の実践 <ul style="list-style-type: none"> ・準備した解決策を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○結果の振り返り <ul style="list-style-type: none"> ・実践の結果を振り返り、成果と課題を整理する。 ・それらを発表資料として取りまとめる。 ○成果発表会の企画・準備 <ul style="list-style-type: none"> ・発表会の企画、準備を進める。 ○表彰 <ul style="list-style-type: none"> ・生徒・先生・保護者・地域関係者全員で投票を行い、上位グループの表彰を行う（学年全体で行う等、グループ数が多い場合を想定）
教材・副読本	<ul style="list-style-type: none"> ・出版物（図書、観光関連雑誌等） ・観光庁、地方公共団体の各種統計データ ・地図、パンフレット ・アンケート記録、インタビュー記録、調査報告書 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の魅力を伝える観光案内マップ ・地域の魅力を伝える企画提案シート（パワポ等） ・官公庁が出している観光や地域活性化に関する事例集、書籍 ・外部人材（観光振興や地域活性化に関する専門家によるハンズオン支援） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者との意見交換の記録 ・実践の記録
アウトプット	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをまとめた模造紙、パワポ ・地域の魅力を伝える観光案内マップ ・地域の魅力を伝える企画提案シート（パワポ等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域関係者との意見交換の記録 ・実践の記録 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをまとめた模造紙、パワポ ・授業内での発表

2. 業務の内容

本業務では、前述の目的を実現するため、以下の（１）～（５）の業務を実施した。

- （１）モデル授業実践校の選定
- （２）本業務に関する説明会等の実施
- （３）モデル授業の実践・効果検証・ブラッシュアップ
- （４）成果報告会の開催
- （５）モデル授業の実践事例集のとりまとめ及び普及に向けた効果的な情報発信（広報）

(1) モデル授業実践校の選定

①モデル授業実践校の募集

まず、モデル授業実践校を募集するため、以下のとおり、募集要領を作成した。

観光教育に関するモデル授業実践校

募集要領

■募集期間

平成30年7月31日（火）～平成30年9月13日（木）17:00（必着）

■問合せ先

<募集手続きに関して>

〒105-0011 東京都港区芝公園3-1-22 日本能率協会ビル5F

株式会社日本能率協会総合研究所

交通・まちづくり研究部 地域づくり支援チーム（担当：松川・石澤・前原）

連絡先 Tel：03-3434-6283 E-mail：syaken_01@jmar.co.jp

<観光教育に関するモデル授業に関して>

〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-3

国土交通省観光庁観光産業課人材政策室 谷川、岡

連絡先 Tel：代表 03-5253-8111（内線 27-336） 直通 03-5253-8367

E-mail：tanikawa-y2x@mlit.go.jp、oka-k22y@mlit.go.jp

平成30年7月

I. 観光教育モデル授業の実践校募集について

1. 背景・目的

近年、海外から訪れる外国人観光客は年間 2,869 万 1 千人を超え、年々増加傾向にある中で、観光庁では、初等中等教育の子どもたちに、日本各地の観光資源の魅力や今後さらに増加する観光需要等について学ぶ機会をつくり、国内や海外への関心を高めるとともに、わが国の成長戦略の柱であり地方創生の切り札である観光産業への興味関心の喚起へつなげることを目的として、「観光教育」の普及に取り組んでいます。

観光教育は、子どもたちが自分たちの住むまちや世界の中の日本について観光の観点から学ぶことで、自分たちの住むまちへの関心や愛着を醸成する機会になります。また、自ら地域の課題を見つけ、その解決策を考えるプロセスは、子どもの成長にも大きく寄与します。さらに、身近な観光を題材とした授業を行うことで社会、英語等の学習効果を高めることも期待されます。

平成 29 年度は、「観光教育に関する調査事業」を実施し、「総合的な学習の時間」等を活用して観光教育に取り組む事例を調査し、取り組み内容や取り組むことで得られた成果等について整理・分析を行いました。そして、専門家の意見も取り入れながら、国内における観光教育の推進に資する観光教育のモデル授業案を構築しました。

今年度は、昨年構築したモデル授業案の効果検証、観光教育の更なる普及促進を目的として、観光教育に取り組む実践校を募集いたします。

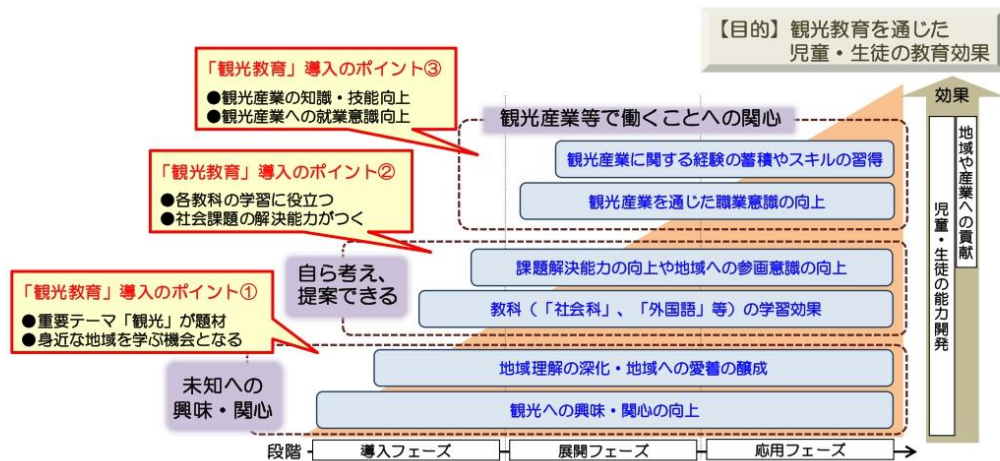
※詳細は下記 URL をご参照ください。

【観光教育の普及に向けて 観光庁 HP】

http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/sangyou/kyoiku_juujitsu.html

2. 実践校になることのメリット

- ・ 観光教育について体験しながら学ぶことができる。
- ・ 専門家のアドバイスを受けながら授業の構築・実践・ブラッシュアップができる。
- ・ 国内初となる先進的なモデル授業に取り組むことで、新しい取組に挑戦する校内の機運醸成や対外的な PR につながる。



Ⅱ. 募集内容

1. 応募要件

モデル授業実践校は、次の（１）及び（２）の要件を全て満たすものとします。

- （１）本モデル授業の趣旨に合致した取組が可能な小学校・中学校・高等学校あるいはそれらの学校と連携した授業の実施が可能な団体（企業、NPO等）であること。
- （２）モデル授業の実施後、上記の学校において継続して観光教育の実施を検討することが可能であること。

2. 実施期間

平成30年9月ごろから平成31年2月28日（木）まで

3. 選定数の上限

選定数は2校程度とします。なお、同一の学校や団体から複数応募することはできません。

Ⅲ. モデル授業実践校の選定

1. 選定方法・選定数

モデル授業実践校の選定にあたっては、有識者等の意見を踏まえ、以下に示す「選定基準」に従って、応募期限までに応募があったものの中から、観光庁において選定する予定です。

2 選定基準

選定にあたっては、以下の観点から審査を実施します。

（１）形式審査

応募主体が、Ⅱ. 募集内容の1に掲げる要件を満たしていること。

（２）内容審査

応募内容に対し、下記の各項目について審査します。

①先進性	・提案された内容が他ではあまり見られない先進的なものであり、実現した場合にその成果が全国へ横展開できるようなモデル的な取組になると考えられるもの。
②適格性	・提案されたモデル授業の内容が、本モデル授業の趣旨と合致しているもの（子どもの探求心や課題解決能力の育成等につながるものか等）。
③具体性	・提案されたモデル授業について、具体的な取組内容やどのような成果を出すことを目的としているかが示されているもの。
④実効性	・提案されたモデル授業の実現に向けて、意欲が感じられ、学校や地域の関係団体等が連携して取り組む体制が整っているもの。 ・既に観光教育に取り組んでいる下地があるもの。
⑤継続性	・提案されたモデル授業が、今年度限りのものでなく、来年度以降も継続していくことが期待されるもの。

(3) ヒアリングの実施

選定にあたり、応募内容について電話によるヒアリングを実施する場合があります。

また、必要に応じ、追加資料提出等の対応を求める場合があります。

(4) 選定結果の公表

選定結果については、観光庁から選定者に対して選定通知を通知するとともに、観光庁ホームページにて選定学校・団体名、取組内容等について公表します。

3. 応募方法

応募の際は、以下の宛先まで、EメールまたはFAXによりご提出下さい。

※ご提出後、必ず電話にて着信確認をしてください

【宛 先】 株式会社日本能率協会総合研究所
交通・まちづくり研究部 地域づくり支援チーム（担当：松川・石澤・前原）
E-mail：syaken_01@jmar.co.jp FAX：03-3432-1837

【応募期限】 平成30年9月13日（木）17：00 必着

【提出内容】 ・様式1：応募申請書

【問合せ先】 株式会社日本能率協会総合研究所
交通・まちづくり研究部 地域づくり支援チーム（担当：松川・石澤・前原）
連絡先 Tel：03-3434-6283 E-mail：syaken_01@jmar.co.jp

IV. 留意点

1. モデル授業実践校の選定を受けた学校や団体等は、選定通知を受けた後、モデル授業の内容を変更する場合、又はモデル授業を中止しようとする場合は、事前に観光庁の承認を得なければならないこととします。
2. モデル授業実践校の選定を受けた学校や団体等は、まず、説明会に参加いただきます。観光教育の専門家の実践により、観光教育を実体験して学ぶことができる機会とする予定です。
3. モデル授業実践校はモデル授業の実施完了後1週間以内に、Ⅲ. 2. 応募方法に記載している宛先まで下記の書類を提出していただきます。
・様式3：実施報告書
4. モデル授業実践校は、平成31年3月に開催を予定している成果報告会（東京都内で開催予定）において、成果を報告していただきます。成果報告会に参加いただく際の旅費・交通費については、実践校から最大2名までお支払いいたします。
5. モデル授業の完了後には、全国の小学校・中学校・高等学校等における観光教育の取組の参考となるよう国等により当該事業の成果を公表することを予定しております。なお、上記2. において提出いただいた報告書や上記3. で報告いただいた内容を国において公開することがあります。

「観光教育に関するモデル授業実践校」応募申請書

平成 年 月 日

<応募主体について> ※学校のパンフレット等がございましたら添付ください

項目	記入欄	項目	記入欄
(ふりがな) 学校・団体名		(ふりがな) 所在地	
代表者 (役職・氏名)		連絡窓口 担当者	所属等
連携する 学校名	※応募主体が学校以外の場合、実践する 予定の連携先となる学校名をお書きくだ さい。		氏名
			電話番号
		E-mail	

<モデル授業の計画について>

項目	記入欄			
該当する モデル授業	[1]導入編 [2]発展編 [3]応用編 ※いずれかに○をつけてください			
モデル授業 の内容	取組名称			
	単元・時間	(単元名：____、時間：____時間程度) ※モデル授業の実施を予定している授業の単元・時間を明記ください		
	対象とする 学年・クラス	(担任名： 先生)		
	内容	※利用を予定している教材がありましたら明記ください		
	期待する成果			
実施体制	スケジュール	※モデル授業を実施する予定時期を必ず明記ください		
		※外部の人材を授業の講師として活用する等、連携先がありましたら以下に記入ください		
		連携先 1	連携先 2	連携先 3
取組の ポイント	名称			
	役割			
	※2 頁目に記載した以下の各項目について、当ではまる内容を簡潔に記入ください			
	①先進性			
	②適格性			
③具体性				
④実効性				
⑤継続性				
来年度以降 の予定				

※枚数制限はありませんが、簡潔かつ具体的に記載してください

様式 2

「観光教育に関するモデル授業実践校」応募申請書（記入例）

平成 30 年 8 月 8 日

<応募主体について>

項目	記入欄	項目	記入欄	
(ふりがな) 学校・団体名	にのうちゅうがっこう 日能中学校	(ふりが な) 所在地	とうきょうとみなとくしほこうえん 東京都港区芝公園3-1-22	
代表者 (役職・氏名)	校長・日能 太郎	連絡窓口 担当者	所属等 社会科教員	
連携する 学校名	なし（当校のみ）		氏名	日能 花子
			電話番号	03-3434-7282
		E-mail	Hanako_noritsu@jmar.co.jp	

<モデル授業の計画について>

項目	記入欄			
該当する モデル授業	[1]導入編 [2]発展編 [3]応用編			
モデル授業 の内容	取組名称	身近な人気観光地を訪れる訪日観光客のリピーター化の検討		
	単元・時間	(単元名: 総合的な学習の時間、時間: 6 時間程度)		
	対象とする 学年・クラス	中学校 2 年 3 組の 1 クラス (担任名: 日能 花子先生)		
	内容	訪日外国人観光客の現状を座学で学んだ上で、グループに分かれ、身近な人気観光地でフィールドワークを行い、自分達のまちにリピートしてもらうための課題を調べる。グループワークで解決策を検討し、検討した内容をグループごとに発表する。		
	期待する成果	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が身近な地域について、観光地としての魅力を発見する 外国人のおもてなしを考えるを通じ、観光に興味を持たせる リピーター拡大策を考えるを通じ、社会課題の解決を実践する 		
スケジュール	<ul style="list-style-type: none"> 9 月中旬～10 月中旬: 授業内容の構築、及び関係者の調整 10 月下旬～11 月上旬: 授業① (座学: 観光教育の基礎学習) 11 月中旬～11 月下旬: 授業② (フィールドワーク) 12 月上旬～12 月中旬: 授業③ (座学: グループワーク) 1 月: 参加した生徒へのアンケート調査 2 月: 成果報告の取りまとめ 			
実施体制	※外部の人材を授業の講師として活用する等、連携先がありましたら以下に記入ください			
		連携先 1	連携先 2	連携先 3
	名称	日能トラベル	日能商店街連合会	日能寺
役割	座学の外部講師	生徒の現地ヒアリング	生徒の現地ヒアリング	
取組の ポイント	※2 頁目に記載した以下の各項目について、当てはまる内容を簡潔に記入ください			
	①先進性	近年課題となっている訪日外国人のおもてなしを題材とする。		
	②適格性	モデル授業具体的に効果的のある授業とするため、座学、フィールドワークや成果発表を実施する。		
	③具体性	座学、フィールドワーク、発表それぞれで成果を明確化している。		
	④実効性	地域の旅行会社や観光地と連携した授業を実施する。		
⑤継続性	フィールドワークの対象や取り上げる課題を変えることで、同じ構成で継続して観光教育を実践することが可能。			
来年度以降 の予定	総合的な学習の時間、または社会科の時間で、自主的に継続して実施することを検討する。			

様式 3

「観光教育に関するモデル授業」実施報告書

平成 年 月 日

学校・団体名：

取組の内容	実施期間	実施結果	成果と課題

(備考)

1. 用紙の大きさは、日本工業規格A列4縦とする。
2. 必要に応じ適宜項を加除して使用すること。

次に、観光庁HP（トピックス）にて、以下のとおり、作成した募集要領を掲載し、モデル授業実践校の募集を告知した。

国土交通省 **観光庁** [ご意見箱](#) [サイトマップ](#) [English](#) [中文简体](#) [中文繁体](#) [한국어](#)
文字の大きさ [標準](#) [拡大](#) [音声読み上げ・ルビ振り](#)

[光庁について](#) [政策について](#) [委員会・審議会等](#) [統計情報・白書](#) [予算・調達情報](#) [報道](#)

[観光庁ホーム](#) > [報道・会見](#) > [トピックス](#) > [2018年](#) > 観光教育に関するモデル授業の実践校を募集します！

観光教育に関するモデル授業の実践校を募集します！

最終更新日：2018年8月21日

観光庁では、「総合的な学習の時間」等を想定した観光教育の普及に向けて、その重要性や具体的な進め方についての理解促進と導入支援に努めております。

このたび、平成29年度に実施した調査事業において構築した「モデル授業案」の検証のため、下記の募集要領に基づき、観光教育に取り組む実践校を広く募集いたします。

事業の目的・背景

観光教育を通じて、初等中等教育段階の子どもたちに、日本各地の魅力的な観光資源や今後さらに増加する観光需要等について伝え、わが国の成長戦略の柱であり地方創生の切り札である観光への興味関心を喚起する。

※参照：観光教育の普及に向けて http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/sangyou/kyoiku_juujiitsu.html

※平成29年度事業の詳細およびモデル授業案についても、上記URLからご確認いただけます。

募集期間

募集開始日：平成30年7月31日（火）
募集締切日：平成30年9月13日（木）17：00必着

募集要領

[観光教育に関するモデル授業実践校 募集要領](#)  [PDF：472KB]

応募様式

[申請書（様式1）](#)  [Word：24KB]
[記入例](#)  [PDF：302KB]

応募方法

応募の際は、以下の宛先までEメールまたはFAXによりご提出ください。

【宛先】株式会社日本能率協会総合研究所
交通・まちづくり研究部 地域づくり支援チーム（担当：松川・石澤・前原）
E-mail：syaken_01@jmar.co.jp FAX：03-3432-1837

【提出内容】申請書（様式1）

【応募に関する問い合わせ先】株式会社日本能率協会総合研究所
交通・まちづくり研究部 地域づくり支援チーム（担当：松川・石澤・前原）
Tel：03-3434-6283 E-mail：syaken_01@jmar.co.jp

観光庁観光産業課 谷川、岡
代表：03-5253-8111（内線27336）
直通：03-5253-8367

観光庁 [\[アクセス・地図\]](#) [ご質問・使い方](#) | [サイトポリシー](#) | [著作権・リンク](#)、[免責事項について](#)
住所：〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-2
電話：03-5253-8111（国土交通省代表）
Copyright © Japan Tourism Agency. All Rights Reserved.

さらに、2018年8月6日発行の日本教育新聞に、以下の募集広告（5段1/2モノクロ）を掲載した。

なお、以下に記載のとおり、募集期間を当初2018年8月22日までとしていたが、応募を検討している学校から要望があったため、2018年9月13日まで延長している。その際、応募を検討している他の学校に対しても延長について通達し、公平性に配慮した。

観光教育に関するモデル授業実践校 募集のご案内

観光庁では、観光教育の普及を目指して、全国の小学校・中学校・高等学校等を対象に、観光教育に関するモデル授業の実践校を募集します。以下をご覧ください。

【募集のご案内（観光庁 HP）】 http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics06_000165.html

初等中等教育段階において、観光を題材とした実践的な授業を通して、今後更に増加する観光需要や日本各地の観光資源の魅力等に関する理解を深め、地域社会への参加意識や探究心を高めるとともに、将来的には、観光に関わる学問や仕事への興味・関心を高めることを期待した取組を進めています。

実践校が取り組むこと

- ・観光庁が構築したモデル授業（※注）に基づき、今年度中に観光教育を実践する
- ・観光教育の専門家の助言を受けながら、観光教育の授業を構築する
- ・平成31年3月に、観光庁が都内で開催する成果報告会で、実践の成果を発表する

※注：構築したモデル授業については、上記 URL の観光庁 HP をご参照ください

実践校になることのメリット

- ・専門家のアドバイスを受けながら授業の構築・実践・ブラッシュアップができる！
- ・先進的な授業に取り組むことで、校内の機運醸成や対外的な PR につながる！



（小学校での観光教育の様子）

【応募要件】

モデル授業実践校は、次の（1）及び（2）の要件を全て満たすものとします。

- （1）本事業の趣旨に合致した取組が可能な小学校・中学校・高等学校あるいはそれらの学校と連携した授業の実施が可能な団体（企業、NPO等）であること
- （2）本事業終了後も、継続して観光教育の実践が可能であること

【募集期限】平成30年 8月22日（水） 17:00（必着）

【選定数】2校程度

お問い合わせ

<募集手続きについて>

株式会社日本能率協会総合研究所 交通・まちづくり研究部（担当：松川・石澤・前原）

連絡先 Tel：03-3434-6283 E-mail：syaken_01@jmar.co.jp

<観光教育モデル授業の検証・普及事業について>

観光庁 観光産業課 人材政策室 谷川、岡（連絡先 Tel：代表 03-5253-8111（内線 27-336））



募集の結果、モデル授業実践校を募集した結果、下表のとおり、全国各地から6校の応募があった。

図表・2 モデル授業実践校への応募校

No.	対象	対象学年	都道府県	応募学校・団体等の名称	取組名称
1	-	小学校 5年生 4クラス	東京都	A小学校	観光業を支える情報の働き
2	発展編	小学校 4・5年生	沖縄県	B小学校	沖縄を訪ねる観光客へ沖縄の 魅力の発信と再発見
3	発展編	中学校 2年生 1クラス	長野県	C中学校	2 学年台湾交流 郷土を内外 からとらえ考え、郷土の発展 につなげる
4	発展編	高等学校 3年生 選択授業 11名	北海道	D高等学校	地域の素材を生かした新たな 観光プランニングの提言
5	発展編	高等学校 2年生 1クラス	福島県	E高等学校	地元観光地が抱える課題と効 果的な観光客誘致の検討
6	発展編	高等学校 3年生 選択授業 14名	長野県	F高等学校	国際観光都市軽井沢を日英語 でガイドングする授業の実 践

②モデル授業実践校の選定

応募があった6校について、有識者2名、日本観光振興協会、観光庁、文部科学省の5者により、①先進性、②適格性、③具体性、④実効性、⑤継続性の観点から評価を行い、評価の上位となった2校（福島県立猪苗代高等学校、那覇市立開南小学校）をモデル授業の実践校として選定した。

また、モデル授業の実践校の選定結果について、以下のとおり、2018年10月9日に観光庁HP（トピックス）で公表した。



国土交通省
観光庁

ご意見箱 サイトマップ English 中文简体 中文繁体 한국C

文字の大きさ **標準** 拡大 音声読み上げ・ルビ振り

光庁について  政策について  委員会・審議会等  統計情報・白書  予算・調達情報  報道・

[観光庁ホーム](#) > [報道・会見](#) > [トピックス](#) > [2018年](#) > 観光教育に関するモデル授業実践校を決定しました！

観光教育に関するモデル授業実践校を決定しました！

最終更新日：2018年10月9日

平成30年7月31日～9月13日の期間に公募しておりました、「観光教育に関するモデル授業実践校」を以下の通り決定いたしましたので、お知らせいたします。

事業について

観光庁では、「総合的な学習の時間」等を想定したモデル授業の検証と普及事業を通じて、観光教育の重要性やその具体的な進め方等に関する認知・理解を促し、全国各地における観光教育の導入支援に努めております。

※参照： 観光教育の普及に向けて http://www.mlit.go.jp/kankocho/shisaku/sangyou/kyoiku_juujitsu.html
観光教育に関するモデル授業の実践校を募集します！ http://www.mlit.go.jp/kankocho/topics06_000165.html

モデル授業実践校（順不同）

都道府県	応募学校・団体等の名称
福島県	福島県立猪苗代高等学校
沖縄県	那覇市立開南小学校

 このページに関するお問い合わせ

観光庁観光産業課 谷川、佐藤
代表：03-5253-8111（内線27336）
直通：03-5253-8367

観光庁 [\[アクセス・地図\]](#) [ご質問・使い方](#) | [サイトポリシー](#) | [著作権・リンク、免責事項について](#)

住所：〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-2
電話：03-5253-8111（国土交通省代表）

Copyright © Japan Tourism Agency. All Rights Reserved.

(2) 本業務に関する説明会等の実施

モデル授業の実践校を有識者とともに訪問し、下表のとおり、現地で説明会を実施した。

開催日時・場所	参加者	内容
10月29日(月) 那覇市立 開南小学校	○那覇市立開南小学校 教諭 5名 ○観光庁観光産業課観光人材政策室 職員 1名 ○玉川大学 教授 寺本 潔 ○(株)日本能率協会総合研究所 研究員 1名	1.観光教育に関するモデル授業の狙いと取組内容について 2.那覇市立開南小学校の計画の概要説明 3.有識者等による計画への助言や観光教育に関する情報提供 4.その他(今後の日程調整等)
11月2日(金) 福島県立 猪苗代高等学校	○福島県立猪苗代高等学校 教諭 3名、外部講師 1名 ○観光庁観光産業課観光人材政策室 職員 2名 ○京都文教大学 准教授 澤 達大 ○(株)日本能率協会総合研究所 研究員 1名	1.観光教育に関するモデル授業の狙いと取組内容について 2.福島県猪苗代高等学校の計画の概要説明 3.有識者等による計画への助言や観光教育に関する情報提供 4.その他(今後の日程調整等)

まず、那覇市立開南小学校で開催した説明会の概要は以下のとおり。

■日 時：2018年10月29日（月）16時半～18時

■場 所：那覇市立開南小学校

■参加者：

- 那覇市立開南小学校：教諭 5名
- 観光庁観光産業課観光人材政策室 職員 1名
- 玉川大学 教授 寺本 潔
- （株）日本能率協会総合研究所 研究員 1名

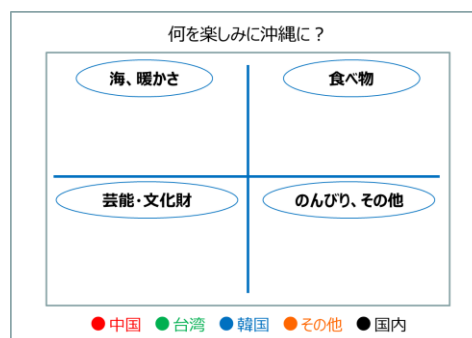
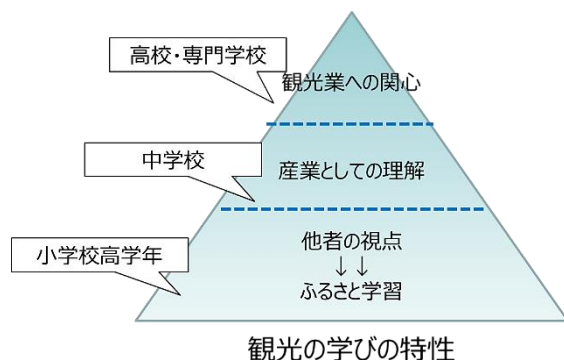
■議 事：

- 観光庁から、観光教育のモデル授業の狙いについて説明があった。
- 日能総研から、観光教育のモデル授業の取組内容について説明があった。具体的には、実施計画書の作成（モデル授業開始前）、進捗報告（モデル授業開始中）及び成果報告（モデル授業終了後、来年3月開催予定）について、対応の指示を伝えた。
- 寺本先生から、自作の概念図を用いて観光教育に関する考え方の解説とともに、外国人を対象としたインタビューを実施する参考資料として、自作のインタビューボードを活用する方法の提案があった。
- 開南小学校は、「モデル授業案」の【導入編】、【発展編】を4年生、5年生がそれぞれ実践し、階層、段階別に検証することとなった。
- 開南小学校がモデル授業の取組内容について了承した。年内は観光教育の授業内容を構築することとし、11月中に単元案を作成し、日能総研へ提出することとなった。

（説明会の様子）



（寺本先生の提案：観光教育の概念図（左図）とインタビューに使うボード案（右図））



次に、福島県立猪苗代高等学校で開催した説明会の概要は以下のとおり。

■日 時：2018年11月2日（金）13時～14時半

■場 所：福島県立猪苗代高等学校

■参加者：

- 福島県立猪苗代高等学校 教諭 3名、外部講師 1名
- 観光庁観光産業課観光人材政策室 職員 2名
- 京都文教大学 准教授 澤 達大
- （株）日本能率協会総合研究所 研究員 1名

■議 事：

- 観光庁から、観光教育のモデル授業の狙いについて説明があった。
- 日能総研から、観光教育のモデル授業の取組内容について説明があった。具体的には、実施計画書の作成（モデル授業開始前）、進捗報告（モデル授業開始中）及び成果報告（モデル授業終了後、来年3月開催予定）について、対応の指示を伝えた。
- 澤先生から、猪苗代高校の観光教育Ⅱの授業プログラムやモデル授業の取組として予定している内容に関する質問と助言があった。
- 猪苗代高校は、「モデル授業案」の【応用編】を実践することとなった。
- 猪苗代高校がモデル授業の取組内容について了承した。また、今月開催される修学旅行において、外国人を対象としたインタビューを実施することの報告があった。さらに、11月16日（金）までに実施計画書を作成し、日能総研へ提出することとなった。
- 次回、そのインタビュー結果の取りまとめをグループワークで行う際等に、澤先生とともに伺いし、観光教育の実践を支援することとなった。

（説明会の様子）



今回のモデル授業実践校について、以下のように「モデル授業案」の導入編、展開編、応用編として位置付け、効果検証を行うこととした。

対象クラス	取組内容[科目]	位置付け
那覇市立 開南小学校 4年 1組、2組 合計69名	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光と沖縄の魅力に関する座学（副読本） [社会 3 時間] ○ 沖縄の魅力に関するグループワークと発表 [社会 4 時間] ○ 沖縄の魅力発信（パンフレットの作成、紹介） [社会 5 時間] 	導入編
那覇市立 開南小学校 5年 1組、2組 合計56名	<ul style="list-style-type: none"> ○ 観光と沖縄の魅力に関する座学（副読本、Web） [総合 3、社会 1 時間] ○ 外国人等へのインタビューの準備 [総合 1、外国語 1 時間] ○ 外国人等へのインタビュー調査（国際通り） [総合 2 時間] ○ インタビュー結果の取りまとめ [総合 2 時間] ○ 外部講師による学習（沖縄コンベンションビューロー） [総合 1 時間] ○ 海外の学校との交流 [体育 1 時間] ○ 沖縄の魅力発信（沖縄の魅力を紹介するポスター、CM 作成） [総合 4 時間] 	展開編
福島県立 猪苗代高校 11名	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然体験学習 [観光Ⅱ 2 時間] ○ 就業体験（デュアルシステム） [5 日間] ○ 外国人へのインタビュー調査 [修学旅行] ○ 外部講師による講義 [観光Ⅱ 2 時間] 	応用編

(3) モデル授業の実践・効果検証・ブラッシュアップ

①モデル授業の実践

福島県立猪苗代高等学校、那覇市立開南小学校のそれぞれについて、以下のとおり、モデル授業の実践があった。

<福島県立猪苗代高等学校>

福島県立猪苗代高等学校では、選定後からモデル授業の実践に取り組む中で、以下のとおり、計画書の提出と有識者による指導会の開催があった。

同校については、京都文教大学の澤准教授が有識者として助言等を担当した。

開催日時（場所等）	参加者	内容
11月15日(木) (電子メールにて)	-	・ 年間計画書の提出
11月28日(水) (福島県立猪苗代高等学校にて)	○福島県立猪苗代高等学校 教諭3名、生徒、他 ○京都文教大学 准教授 澤 達大 ○(株)日本能率協会総合研究所 研究員1名	・ 観光教育の授業「修学旅行で実施した外国人を対象としたインタビュー調査(フィールドワーク)結果の取りまとめ」の視察及び助言
12月20日(木) (電子メールにて)	-	・ 年間計画書(修正版)の提出
2月21日(木) (福島県立猪苗代高等学校にて)	○福島県立猪苗代高等学校 教諭3名、生徒、他 ○京都文教大学 准教授 澤 達大 ○(株)日本能率協会総合研究所 研究員1名	・ 校内向けの観光教育の取組に関する成果報告会の視察及び助言
3月15日(金) (電子メールにて)	-	・ 年間計画書(進捗結果の報告)の提出

まず、福島県立猪苗代高等学校から、以下のとおり、計画書の提出があった。

※注：福島県立猪苗代高等学校では、既存の「観光Ⅱ」の授業を実施する中で、観光教育のモデル授業の実践校に選定される前から、今年度、観光教育に取り組んでいたため、計画書提出時点で、以下の4まで実施済みであった。

取組の内容	実施期間	実施予定	実施結果	成果・課題
1. 修学旅行先の調べ学習 (1限目)	10/16	・修学旅行先の観光地や文化財について調べ学習を行い、詳細をまとめる。	・インターネットを利用し修学旅行先の観光地や文化財について調べまとめた。	・旅行先の観光地や文化財の歴史的背景や食文化についても理解させることができた。
2. 地元観光地のフィールドワーク (2限目)	10/31	・外部講師の案内により裏磐梯のフィールドワークを実施する。	・裏磐梯中瀬沼において外部講師の案内による自然学習を実施した。	・地元観光資源に対する理解をさらに深めることができた。
3. 地元旅館・ホテルでの企業実習	10/23 ～ 10/29	・地元旅館、ホテルにおいて一週間の企業実習を実施する。	・地元旅館、ホテル6社の協力を得て生徒全員の企業実習を実施できた。	・宿泊施設における仕事の基本的な知識、技術を理解させるとともに、“おもてなし”について考えさせた。
4. アンケート調査	11/10	・対象クラス生徒全員に事前アンケートを実施する。	・観光ビジネス科2年2組11名全員に事前アンケートを実施した。	・観光教育に対する生徒の意識を把握することができた。
5. 修学旅行先でのフィールドワーク	11/19 ～ 11/22	・観光地や宿泊場所でフィールドワークを実施する。	—	—
6. 地元観光地の魅力と課題についての考察 (3限目)	11/28	・修学旅行のフィールドワークをふまえ、地元観光地の魅力や抱える課題について考えまとめる。	—	—
7. 観光客誘致の効果的な方法についての考察1 (4限目)	12/12	・グループワークで観光客誘致の効果的な方法について考えまとめる。	—	—
8. 研究成果についての中間報告	12/18	・学習発表会において研究の中間報告を行う。	—	—
9. 観光客誘致の効果的な方法についての考察2 (5限目)	1/16	・外部講師より、他地域の地域活性化策の講義を受け地元猪苗代町の観光客誘致策を具体化する。	—	—
10. 研究成果についての成果報告	2/21	・校内で研究成果の最終報告を行う。	—	—

次に、2018年11月28日に、福島県立猪苗代高等学校にて、モデル授業の実践及び指導会（第1回目）を開催した。

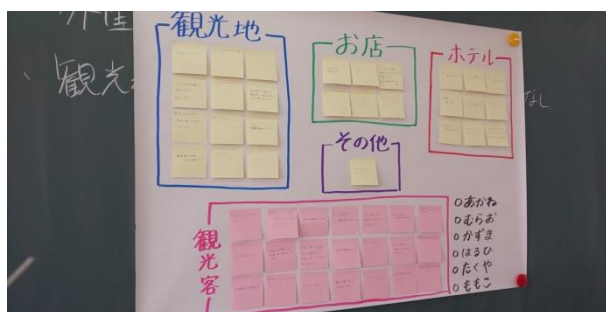
- 3限目は、まず、修学旅行で実施した外国人へのインタビュー調査でわかったことをテーマとし、KJ法によりグループで取りまとめを行った。
- 澤先生から、KJ法でまとめる際のポイント（アイデアを多く出すこと、まとめながらアイデアを出すこと、ポストイットを貼る際に意見を読み上げること）、観光客受入に向けた取り組みの中でも、“おもてなし等のソフト面”、“飲食施設等のハード面”、あるいはアジア客、欧米客等の分け方のポイントの指摘があった。また、すぐに対応できること、お金がかかることに分かれることの見方をヒントとして助言があった。さらに、外国人へのインタビューで、英語を学ぶことだけではなく、外国人とのコミュニケーション能力が大事だと助言があった。
- 4限目は、京都・大阪への修学旅行での調査を受け、地元の猪苗代、会津の状況を考えることをテーマとし、再び、KJ法を用い、グループでの取りまとめを行った。
- 澤先生から、旅行に出かける人が何を求めるか、「非日常」を求めること、猪苗代を訪れる人はどのような非日常を求めるのか指摘があった。また、ニセコで、駅前が猪苗代駅に似ているが外国人が多く来ている。町の規模も似ている。それでは何が魅力なのか、考えてみてはどうかと示唆があった。

（当日実施された観光教育授業の時間割）

授業	時間	内容
3 限目	10 分間	先生によるガイダンス ・ 修学旅行での外国人へのインタビュー調査の結果概要の説明 ・ テーマ①「インタビュー調査から気づいたことをまとめる」 （訪日外国人の状況、観光地の状況）
	20 分間	個人で考える時間（テーマ①）
	20 分間	グループでのまとめ（テーマ①）
4 限目	10 分間	グループごとの発表（テーマ①）
	5 分間	講評（澤先生）
	5 分間	先生によるガイダンス ・ テーマ②「地元の猪苗代町、会津の状況を考える」
	10 分間	個人で考える時間（テーマ②）
	15 分間	グループでのまとめ（テーマ②）
	5 分間	グループごとの発表（テーマ②）

（グループワークの様子）

（取りまとめ結果・猪苗代観光の課題）



その後、2018年12月20日に、福島県立猪苗代高等学校から、以下のとおり、計画書（修正版）の提出があった。

※赤色文字が追加・修正した内容

取組の内容	実施期間	実施予定	実施結果	成果・課題
1. 修学旅行先の調べ学習 (1~2 限目)	10/16	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行先の観光地や文化財について調べ学習を行い、詳細をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「観光Ⅱ」での2時間（50分×2）を使い、インターネットを利用し修学旅行先の観光地や文化財について調べまとめた。情報源はインターネットを利用した。生徒の個人作業で展開した。 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行先の観光地や文化財の歴史的背景や食文化についても理解させることができた。ただし、「課題や弱み」については理解させることはできなかった。 生徒が旅行先の地理的、歴史的な基本的な知識に乏しく、また文化財の名称等、漢字の読みなどにも困難が生じるため、担当教員が穴埋めプリントを準備し調べ学習を進めやすくするよう配慮した。
2. 地元観光地のフィールドワーク (3~4 限目)	10/31	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の案内により裏磐梯のフィールドワークを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 裏磐梯中瀬沼において外部講師の案内による自然学習を実施した。外部講師は、福島自然保護協会理事：横田清美氏。 裏磐梯中瀬沼周辺での自然学習。外部講師の案内によるレンゲ沼一周散策と裏磐梯ビジターセンターにおける中瀬沼周辺の動植物についての講義を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元観光資源に対する理解をさらに深めることができた。 自然学習は実施する日の気候に左右されることが多い。今回の学習では中瀬沼を一周して自然散策を行う予定だったが、天候の理由で行程の短いレンゲ沼での散策となった。また、天候により当日観察することができない風景や動植物もあつたりした。
3. 地元旅館・ホテルでの企業実習	10/23 ~ 10/29	<ul style="list-style-type: none"> 地元旅館、ホテルにおいて一週間の企業実習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元旅館、ホテル6社の協力を得て生徒全員の企業実習が実施できた。 一週間の企業実習については、実習先により生徒の実習した内容が変わる。フロント業務、客の出迎え、客室/風呂清掃、配膳業務、売店の商品整理、カフェでの接客、布団の上げ下ろしなどの様々な実習を行っている。あいさつや基本的な接客についてはすべての実習先で指導を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設における仕事の基本的な知識、技術を理解させるとともに、“おもてなし”について考えさせた。 企業実習については生徒に日誌を持たせており、終了した時点で提出させている。
4. アンケート調査	11/9	<ul style="list-style-type: none"> 対象クラス生徒全員に事前アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光ビジネス科2年2組 11名全員に事前アンケートを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光教育に対する生徒の意識を把握することができた。
5. 修学旅行先でのフィールドワーク	11/19 ~ 11/22	<ul style="list-style-type: none"> 観光地や宿泊場所でフィールドワークを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークの概要は、大阪、京都での外国人観光客へのヒアリングを実施します。（目的：外国人観光客の興味、関心を調べ、地元観光客誘致に生かす / 方法：生徒によるヒアリング調査、パネルアンケート/実施場所：京都、大阪 / 目標サンプル数：100件）また、並行して観光地や宿泊場所の”おもてなし”についての調査も個別に実施するよう指導した。 	

取組の内容	実施期間	実施予定	実施結果	成果・課題
6. 地元観光地の魅力と課題についての考察 (5～6 限目)	11/28	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行のフィールドワークをふまえ、地元観光地の魅力や抱える課題について考えまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のおおまかな流れについては、例で示された流れのような形で展開できた（ただしグループワークについては若干時間がかかった）。 5 限目、6 限目ともに、説明 10 分⇒とりまとめ/グループワーク 25 分⇒発表 15 分で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客誘致のための課題は、観光場所自体の魅力、観光地/宿泊先でのおもてなし、外国人観光客の誘致の 3 つが大きく関わってくると感じている。 本時の授業展開においては、この 3 点に注目してまとめさせながら課題発見のグループワークを行う予定だが、若干つめこみすぎたのではという不安がある。テーマを絞るべきか考えている。 5 限目の とりまとめについては、生徒個人が行い各自発表した後、6 限目のグループワークを行うか、また最初からグループでとりまとめ発表にかなげるかなど、展開法についても考えている。
7. 観光客誘致の効果的な方法についての考 (7～8 限目)	12/12	<ul style="list-style-type: none"> グループワークで観光客誘致の効果的な方法について考えまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の授業③でまとめた、地元観光地の魅力と課題について再確認し、観光客誘致のための効果的な方法についてグループごとにまとめ、発表した。 7 限目：説明、前時の内容確認 20 分⇒福島県観光客数の現状確認 20 分⇒グループワーク 10 分 8 限目：グループワーク 10 分⇒説明 5 分⇒グループワーク 20 分⇒発表とまとめ 15 分 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の授業でグループごとにまとめた課題が多岐にわたり、グループワークに若干の停滞が見られた。 課題解決法をまとめる際、途中、「特に問題となる課題は何か?」、「自分たちに今できることは何か?」などの質問を投げかけ、担当教員が適切に焦点を絞らせながらグループワークを展開させる必要が生じた。 最後の発表においては、グループごとに「地元PR活動の促進」と「外国人観光客への対応」について今後、具体化していくことが決定した。
8. 研究成果についての中間報告	12/18	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会において研究の中間報告を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内学習発表会において、現在までの取り組みに対する中間報告として全校生に向けてプレゼンテーションを実施した（タイトル：「おいでやす」）。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 限目から 8 限目まで取り組みについてまとめさせ、発表させることで、生徒に今後の活動の意識づけを行うことができた。
9. 観光客誘致の効果的な方法についての考 (9～10 限目)	1/16	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師より、他地域の地域活性化策の講義を受け地元猪苗代町の観光客誘致策を具体化する。 	-	-
10. 研究成果についての成果報告	2/21	<ul style="list-style-type: none"> 校内で研究成果の最終報告を行う。 	-	-

さらに、2019年2月21日に、福島県立猪苗代高等学校にて、モデル授業の実践及び指導会（第2回目）を開催した。

- 生徒から、「自然体験学習」、「デュアルシステム（観光産業の就業体験）」、「外国人へのインタビュー（修学旅行にて）」、「外部講師による講義」の4つの取組について、観光教育の取組成果の報告があった。
- 報告会に同席した普通科の生徒から、対策案（お店の外観の改善）に関する費用をどう考えているか等、複数の質問があがり、活発な質疑応答が行われた。
- 澤先生から、自然観察員のキヨちゃん等外部の方から学ぶことが貴重であること、同じ京都でも外国人が来る状況が違い、人気の金閣寺や嵐山、宇治では平等院ばかりということが問題となっており、同じ京都でも課題があること、同様に、福島にどうやって外国人を呼び込むか、1年間かけて研究することは価値があり、チャンスである示唆があった。京都、大阪に来る外国人が日本で分散化する中、どう福島に呼び込むか。一方、自然を売りにする瀬戸内海の直島が人気となっている。それをヒントに何かできるか考えて欲しいと助言があった。

（生徒による報告の様子）



（発表資料の抜粋）

<p>▶ Course Content ◀</p> <ul style="list-style-type: none"> ○キヨちゃんとの自然学習 ○デュアルシステム ○修学旅行（京都・大阪） ○櫻井先生地域再発見のプレゼン 	<p>キヨちゃん紹介</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・自然が大好き ・自然保護教育（学生向け） ・ラーメン大好き <p>ナチュラリスト 渡田 清美氏</p>		
<p>デュアルシステムで学んだこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・何事にも臨機応変に対応する ・お客様目線で対応する 		<p>インタビューしてみたの感想・気づいたこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なかなか声をかけられなかった。 ・アジア系が多くて英語が通じるかわからなかった。 ・私たもの英語力のなさに重いた。 ・いい体験ができた。リベンジしたい。 	<p>京都・大阪の人気スポット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嵐山や金閣寺、伏見稲荷などの有名な観光地が人気だった。 ・外国人は鳥居に対する印象が強い。
<p>遠況不動産が人気NO.1 ↓しかし… 場所が知られていないので もっとPRしよう!</p> 	<p>福島県の魅力が伝わっていない ↓だから… 京都・大阪に比べて 外国人観光客が少ない。</p> 	<p>福島県民は英会話が苦手！ ↓そのために… 英語が主流の時代になってきたから 積極的に外国人の方と コミュニケーションを図ることが大切。</p> 	<p>①とにかくPR!!! いろんなデビューをしよう!!!!!! 主にチラシ・CM・TV・広告 そして、有名人招待</p> 
<p>②看板をつくろう!!! 外国人観光客にもわかるような 英語・中国語・韓国語の3か国語を 入れた看板を作ってみよう。</p> 	<p>③お店の外観の改善!!! お店も、人と接するのと一緒に、 第一印象が大切です！ まずは外観からよくしてみよう。</p> 	<p>櫻井先生の紹介</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の旅行の状況 ・地元活性化のための観光地の取り組み <p>修学旅行アドバイザー 渡田 清美氏 観光 業 者 会 員</p>	<p>感想・まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元の理解が深まった。 ・観光地の魅力、強みを改めて考えることができた。 ・もっと観光客をPRしたいと思った。 ・観光客に会いたいと思う人を増やすために努力がある気づきをするべきだ。

最後に、モデル授業期間後の2019年3月15日に、以下のとおり、取組結果の報告があった。

※赤色文字が追加・修正した内容

取組の内容	実施期間	実施予定	実施結果	成果・課題
1. 修学旅行先の調べ学習 (1～2 限目)	10/16	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行先の観光地や文化財について調べ学習を行い、詳細をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 科目「観光Ⅱ」での2時間(50分×2)を使い、インターネットを利用し修学旅行先の観光地や文化財について調べまとめた。情報源はインターネットを利用した。生徒の個人作業で展開した。 	<ul style="list-style-type: none"> 旅行先の観光地や文化財の歴史的背景や食文化についても理解させることができた。ただし、「課題や弱み」については理解させることはできなかった。 生徒が旅行先の地理的、歴史的な基本的な知識に乏しく、また文化財の名称等、漢字の読みなどにも困難が生じるため、担当教員が穴埋めプリントを準備し調べ学習を進めやすくするよう配慮した。
2. 地元観光地のフィールドワーク (3～4 限目)	10/31	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師の案内により裏磐梯のフィールドワークを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 裏磐梯中瀬沼において外部講師の案内による自然学習を実施した。外部講師は、福島自然保護協会理事：横田清美氏。 裏磐梯中瀬沼周辺での自然学習。外部講師の案内によるレンゲ沼一周散策と裏磐梯ビジターセンターにおける中瀬沼周辺の動植物についての講義を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元観光資源に対する理解をさらに深めることができた。 自然学習は実施する日の気候に左右されることが多い。今回の学習では中瀬沼を一周して自然散策を行う予定だったが、天候の理由で行程の短いレンゲ沼での散策となった。また、天候により当日観察することができない風景や動植物もあったりした。
3. 地元旅館、ホテルでの企業実習	10/23 ～ 10/29	<ul style="list-style-type: none"> 地元旅館・ホテルにおいて一週間の企業実習を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元旅館、ホテル6社の協力を得て生徒全員の企業実習が実施できた。 一週間の企業実習については、実習先により生徒の実習した内容が変わる。フロント業務、客の出迎え、客室/風呂清掃、配膳業務、売店の商品整理、カフェでの接客、布団の上げ下ろしなどの様々な実習を行っている。あいさつや基本的な接客についてはすべての実習先で指導を受けている。 	<ul style="list-style-type: none"> 宿泊施設における仕事の基本的な知識、技術を理解させるとともに、“おもてなし”について考えさせた。 企業実習については生徒に日誌を持たせており、終了した時点で提出させている。
4. アンケート調査	11/9	<ul style="list-style-type: none"> 対象クラス生徒全員に事前アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光ビジネス科2年2組11名全員に事前アンケートを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光教育に対する生徒の意識を把握することができた。
5. 修学旅行先でのフィールドワーク	11/19 ～ 11/22	<ul style="list-style-type: none"> 観光地や宿泊場所でフィールドワークを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークの概要は、大阪、京都での外国人観光客へのヒアリングを実施します。(目的：外国人観光客の興味、関心を調べ、地元観光客誘致に生かす / 方法：生徒によるヒアリング調査、パネルアンケート / 実施場所：京都、大阪 / 目標サンプル数：100件) また、並行して観光地や宿泊場所の”おもてなし”についての調査も個別に実施するよう指導した。 	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行に参加した生徒全員(普通科の生徒含む)の協力を得て外国人観光客から100件を超えるアンケートのサンプルを得ることができた。 観光地や宿泊場所の“おもてなし”の調査については不十分な面があった。指導側の今後の検討課題となった。

取組の内容	実施期間	実施予定	実施結果	成果・課題
6. 地元観光地の魅力と課題についての考察 (5~6 限目)	11/28	<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行のフィールドワークをひまえ、地元観光地の魅力や抱える課題について考えまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のおおまかな流れについては、例で示された流れのような形で展開できた(ただしグループワークについては若干時間がかかった)。 5 限目、6 限目ともに、説明 10 分⇒とりまとめ/グループワーク 25 分⇒発表 15 分で実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客誘致のための課題は、観光場所自体の魅力・観光地/宿泊先でのおもてなし・外国人観光客の誘致の3つが大きく関わってくると感じている。 本時の授業展開においては、この3点に注目してまとめさせながら課題発見のグループワークを行う予定だが、若干つめこみすぎたのではという不安がある。テーマを絞るべきか考えている。 5 限目のとりまとめについては、生徒個人が行い各自発表した後、6 限目のグループワークを行うか、また最初からグループでとりまとめ発表につなげるかなど、展開法についても考えている。
7. 観光客誘致の効果的な方法についての考察 1 (7~8 限目)	12/12	<ul style="list-style-type: none"> グループワークで観光客誘致の効果的な方法について考えまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の授業③でまとめた、地元観光地の魅力と課題について再確認し、観光客誘致のための効果的な方法についてグループごとにまとめ、発表した。 7 限目：説明・前時の内容確認 20 分⇒福島県観光客数の現状確認 20 分⇒グループワーク 10 分 8 限目：グループワーク 10 分⇒説明 5 分⇒グループワーク 20 分⇒発表とまとめ 15 分 	<ul style="list-style-type: none"> 前回の授業でグループごとにまとめた課題が多岐にわたり、グループワークに若干の停滞が見られた。 課題解決法をまとめる際、途中、「特に問題となる課題は何か?」、「自分たちに今できることは何か?」などの質問を投げかけ、担当教員が適切に焦点を絞らせながらグループワークを展開させる必要が生じた。 最後の発表においては、グループごとに「地元PR活動の促進」と「外国人観光客への対応」について今後、具体化していくことが決定した。
8. 研究成果についての中間報告	12/18	<ul style="list-style-type: none"> 学習発表会において研究の中間報告を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 校内学習発表会において、現在までの取り組みに対する中間報告として全校生に向けてプレゼンテーションを実施した(タイトル:「おいでやす」)。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 限目から 8 限目までの取り組みについてまとめさせ、発表させることで、生徒に今後の活動の意識づけを行うことができた。
9. 観光客誘致の効果的な方法についての考察 (9~10 限目)	1/16	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師より、他地域の地域活性化策の講義を受け地元猪苗代町の観光客誘致策を具体化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 外部講師による、対地域における地域活性化策および効果的なプレゼンテーションの講義を実施した。外部講師は近畿日本ツールリスト郡山支店長：櫻井寛也氏。 9 限目：講義「他地域における地域活性化策の例について」 10 限目：講義および実践「効果的なプレゼンテーションについて」 	<ul style="list-style-type: none"> 講義を受講したことにより、7~8 限目の授業で生徒が考えた問題解決策がさらに具体化されてきた。 プレゼンテーションの意味を改めて考えさせ、発表の態度や姿勢を学ばせることができた。また、生徒各自が考えた地域活性化策のプレゼン作成に取り組んだ。
10. 研究成果についての成果報告	2/21	<ul style="list-style-type: none"> 校内で研究成果の最終報告を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> LHRの1時限の時間を活用し、観光ビジネス科研究発表会を実施した。これまでの研究成果についてのプレゼンテーションを実施した(参加生徒:全1、2年生70名)。 説明 5 分⇒研究成果報告 25 分⇒質疑、応答 10 分⇒講評 10 分 	<ul style="list-style-type: none"> 地元観光地と修学旅行先のフィールドワークの比較検討から、地元理解を深めるとともに、具体的な観光客誘致策が論理的にまとめられたプレゼンテーションを行うことができた。 学校行事との関係で、9~10 限目と成果報告会の時期に間隔が生じてしまった。研究成果報告の時期については、指導者側で今後の検討課題となった。

<那覇市立開南小学校>

那覇市立開南小学校では、モデル授業実践校の選定後、2018 年内は授業内容の構築を進め、2019 年 1 月～2 月に実践があった。モデル授業に取り組む期間中、以下の取組があった。

同校については、玉川大学の寺本教授が有識者として助言を担当した。

開催日時（場所等）	参加者	内容
11 月 26 日(月) （那覇市立開南小学校にて）	○那覇市立開南小学校 教諭 5 名 ○玉川大学 教授 寺本 潔 ○（株）日本能率協会総合研究所 研究員 1 名	・ 寺本先生により、担任の教諭を対象とした観光教育の模擬授業を実施
12 月 27 日(木) （電子メールにて）	-	・ 学習計画の提出
2 月 5 日(火) （電子メールにて）	-	・ 学習計画（修正版）の提出
2 月 7 日(木) （那覇市立開南小学校にて）	○那覇市立開南小学校 教諭、生徒、保護者 ○観光庁観光産業課観光人材政策室 職員 1 名 ○玉川大学 教授 寺本 潔 ○（株）日本能率協会総合研究所 研究員 1 名	・ 国際通りでの観光客を対象としたインタビュー調査（フィールドワーク）の視察等

まず、2018年11月26日に、那覇市立開南小学校において、観光教育を実践する4年生、5年生の担任4名を対象とし、玉川大学寺本先生から観光教育の模擬授業が開催された。

- 寺本先生から、観光教育の概念や他の学校での授業の実践例について紹介があった。
- 担任の教諭から、観光教育の実践に際しての質問や他の学校の実践例に関する質問があった。

(先生の説明の概要)

- ・ ツーリズム EXPO ジャパンが再来年沖縄で開催されることの情報提供。
- ・ イラストカード（観光地で楽しむキャラクター等）の開発、タブレットを使った授業例を紹介。
- ・ 観光の授業で育まれることとして「引き寄せ」、「つなぎ」、「おたすね」がある。
- ・ 学校教育での積み上げ方として、小学校～高校・専門学校の体系を紹介。
- ・ 沖縄県の変化と学校への養成とともに、先生のこれまでの活動を紹介。
- ・ 観光の学びは、“興味・関心が子どもにあること”、デスクワーク、話し合いで出来る。
- ・ 観光の花びら（施設、自然、食べ物、歴史、生活文化、イベント）の考えは入りやすい。
- ・ ふるさと学習との違いは、観光客目線に気付かせること。対人関係力、批判的能力、問題解決力、表現力の向上につながる。
- ・ 学習指導要領に“深い学び”があるが、観光教育により他者目線で考えることが最適。
- ・ 銘苅小学校の6年生の出前授業の例を紹介。ハワイと比較したSWOT分析等を実施。
- ・ 観光市民（感謝の交換、自己の確認、ホスピタリティ、専門知の提供）の考えの紹介。
- ・ 教科横断的学習で育まれる資質・能力（地元や日本の強みと弱みを自覚等）を紹介。

(指導会の様子)

(観光の花びらの例)(教科横断的学習で育まれる資質・能力)



7. 教科横断的学習で育まれる資質・能力とは・・・

- お国自慢でなく、地元や日本の強みと弱みをしっかりと自覚できる力
- 観光と産業との関わりに気づき、地域資源への関心と地域づくりへの参画
- 観光客目線に立ち、多角的な思考で創造的な発想が身につく
- 総合や外国語活動や家庭科、道徳との関連

(その他、寺本先生の説明資料の抜粋)

1. 観光の授業で育まれる力は・・・?

2. 学校教育で積み上げたい観光教育の体系(私案)

5. 那覇市の公立小における寺本の出前授業(全3時間完了)の指導内容

1時間目
最新の沖縄県への観光入込客の状況を把握し、寺本が開発した「観光客・観光事業者の楽しみ方」の冊子を用い、那覇市と近隣の観光地を楽しむ案を地図を見ながら立てる。

2時間目
ハワイと比べて見た沖縄の強みと弱みを考える。ハワイ州の観光の魅力を確認する。タブレットを用いて県民生活で、SWOT分析表を完成させ、沖縄観光の強みと弱みについて考え合い、記入後、差別化を図る。

3時間目
環境と調和した島のホテル建設を考える。寺本が作成した架空の観光島(パード島)の白地図への記入を通して、利便性や自然環境と調和した規模別のホテル建設をテーマに、ペアや家で話し合い観光開発について考える。

次に、2018年12月27日に、那覇市立開南小学校より、以下のとおり、学習計画の提出があった。

4年観光学習計画

過程		学習活動		時数	教材・人材等	授業予定日時
導入	I 沖縄を理解する	1	観光を視点に自県と47都道府県との関係を知ろう	1		1/23(水)
		2	6つの花びらを使って沖縄観光の魅力を知ろう	1		1/28(月)
展開	II 沖縄の魅力を調べよう	3	学習計画を立てよう	1		1/30(水)
		4	6つの視点で調べてみよう	3	副教材	2/4(月)
		①	気候や土地			
		②	自然			
		③	生活・文化			
		④	歴史			
		⑤	食べ物			
		⑥	施設			
		5	調べたことを発表しよう	1		2/13(水)
		6	再調査する	2		2/18(月) or 19(火)
①	沖縄の魅力って何？		外部人材(沖縄ツアーリスト)			
②	これまで調べたことをまとめよう					
まとめ	III 沖縄の魅力を発信しよう	8	沖縄観光の目的に合わせたパンフレットの作成しよう	2		2/21(木)・26(火)
		9	沖縄の魅力を発信しよう	1	外部人材	3/1(金)
				12		

5年観光学習計画

過程		学習活動		時数	他教科	教材・人材等	授業予定日時
導入	I 沖縄県の観光を知る	1	観光とは何か、沖縄観光についての知ろう	1		副教材	1/14(月)
		2	沖縄のもつ観光の魅力について知ろう	1		副教材、外部人材(沖縄ツアーリスト)	1/15(火)
		3	観光客は、どのように情報を得ているのだろうか		1 社会科		1/21(月)
展開	II 沖縄の魅力を調べよう	3	学習計画を立てよう	1			1/22(火)
		4	観光の目的を調べよう	5			
		①	観光の目的を調べるために				1/28(月)
		②	情報をどう得ているのか		1 社会科		1/29(火)
		③	英語で観光客へインタビューしよう		1 外国語		2/1(金)
		④	国内の観光客の目的を調査する			外部人材(国際通り商店街)	2/7(木)
		⑤	海外の観光客の目的を調査する			外部人材(国際通り商店街)	2/7(木)
		⑥	調査したことをまとめよう				2/12(火)
5	調べたことを発表しよう	1			2/13(水)		
まとめ	III 沖縄の魅力を発信しよう	8	沖縄観光の魅力をポスターにしよう	2			2/25(月)
		9	沖縄の魅力を紹介するCMをつくろう	2			2/26(月)
				13	3		

2019年2月5日に、那覇市立開南小学校より、以下のとおり、学習計画（修正版）の提出があった。4年生については、いずれも社会社会科で実施することとし、作成するパンフレットの発信方法を明確にした。また、5年生については、総合的な学習の時間を中心に教科を定め、香港の小学生との交流も実施することとした。

※赤色文字が追加・修正した内容

4年観光学習計画(12時間) 那覇市立開南小学校

月日	内容	教科・領域	備考
1月23日(水)	観光を視点に自県と47都道府県との関係を知ろう(1)	社会	副読本: 沖縄の観光教育、わたしたちの那覇市
1月28日(月)	6つの花びらを使って沖縄観光の魅力を知ろう(1)	社会	6つの花びらを使って沖縄の魅力を知り、関心をもたせる
1月30日(水)	学習計画を立てよう(1)	社会	これからの学習計画を作成する
2月 4日(月)	6つの視点で調べてみよう(3) ①気候や土地 ②自然 ③生活・文化 ④歴史 ⑤食べ物 ⑥施設	社会	資料: 副読本(沖縄の観光教育、市町村のパンフレット、図書資料など)を利用してグループで調べる。外部人材の活用。(八重山の魅力)
2月13日(水)	調べたことを発表しよう(1)	社会	教室でわかったことを発表する
2月18日(月)	再調査する(2) ①沖縄の魅力って何? ②これまで調べたことをまとめよう	社会	これまで調べたことやもっと知りたいと思ったことを調べる(国際通り会、地域人材の活用)
2月 21日(木)	沖縄観光の目的に合わせたパンフレットの作成しよう(2)	社会	個人でパンフレットづくりを行う
3月 1日(木)	沖縄の魅力を発信しよう(1)	社会	パンフレットを国際通り会や沖縄コンベンションビューローの方々に見ていただく。

5年観光学習計画(16時間) 那覇市立開南小学校

月日	内容	教科・領域	備考
1月15日(火)	観光とは何か、沖縄観光について知ろう	総合	副読本: 沖縄の観光教育
1月21日(月)	観光客はどのように情報を得ているのだろうか	社会	インターネットでの検索
2月 4日(月)	学習計画を立てよう	総合	副読本: 沖縄の観光教育
2月 5日(火)	観光の目的を調べるには	総合	ワークシート作成
2月 6日(水)	インタビューの仕方を考えよう	総合	インタビュー練習
2月 7日(木)	英語で観光客へインタビューをしよう	外国語	JTEとの連携による英会話練習
2月 7日(木)	国内・国外の観光客の目的を調査する①	総合	国際通りでの聞き取り調査
2月 7日(木)	国内・国外の観光客の目的を調査する②	総合	
2月11日(月)	調べたことをまとめよう①	総合	聞き取りをもとに教室でまとめる作業を行う
2月12日(火)	調べたことをまとめよう②		
2月14日(木)	沖縄のもつ観光の魅力について知ろう	総合	沖縄コンベンションビューロー
2月15日(金)	香港小学生(秀明小)との交流	体育	体育授業(なわとび)、給食、清掃
2月18日(月)	調べたことを発表しよう	総合	調べたことを発表し、沖縄の魅力についてポスターにする
2月19日(火)	沖縄観光の魅力をポスターにしよう		
2月25日(月)	沖縄の魅力を紹介するCMを作ろう①	総合	ポスターをもとに沖縄の魅力を発信するCMをつくる OCMを国際通り会の皆さんに見てもらおう(計画)
2月27日(火)	沖縄の魅力を紹介するCMを作ろう②		

さらに、2019年2月7日に、那覇市立開南小学校の5年生が那覇市の国際通りで実施された国内外からの観光客を対象としたインタビュー調査（フィールドワーク）を実施した。

- グループを3～4人の少人数にわけ、保護者による見守りを行った。
- 一人目に声をかけることができると、後は積極的にインタビューを行った。
- インタビュー開始後、大雨となったが、雨宿り中の客にインタビューする等、工夫した。

（当日の観光教育授業の時間割）

授業	時間	内容
5時限・6時限 13:55～15:35	10分間	学校でのガイダンス ・ 児童を3～4人ずつのグループにわけ、各グループに見守り活動を行う保護者を1名ずつ配置。グループごとに順番に出発。
	80分間	フィールドワーク（活動時間は60分間、移動を含め80分間） ・ 全長約1マイル（1.6km）の国際通りに配置ポイントを設置。 ・ 配置ポイントは前日に設定し、商店街との調整も済ませた。
	10分間	学校での報告会

（フィールドワークの様子：左写真・出発前のガイダンス 右写真・インタビューの様子）



（フィールドワークの様子：左写真・出発前のガイダンス 右写真・インタビューの様子）



（報告会の様子：左写真・報告会の風景 右写真・インタビューの成果例）



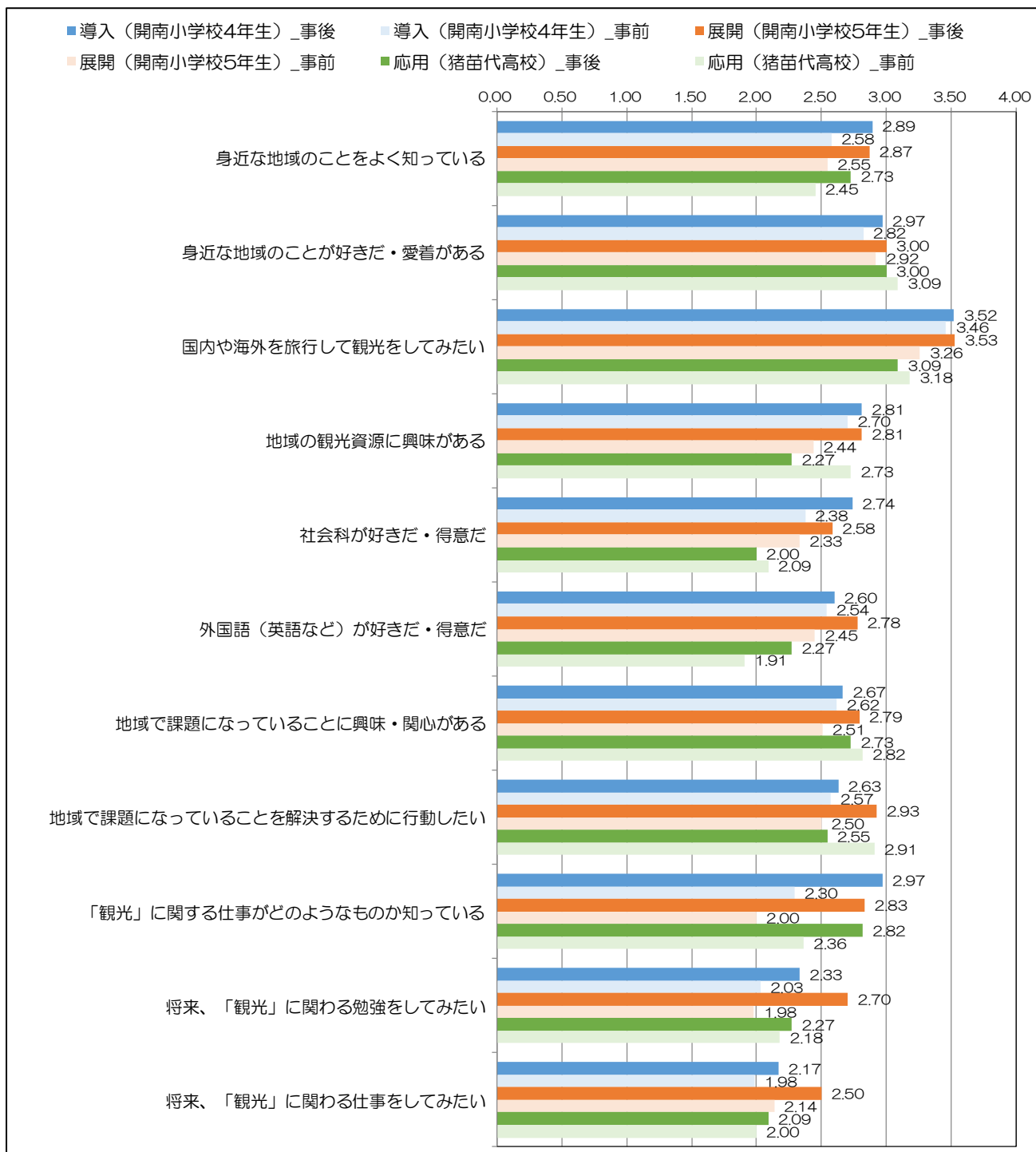
②モデル授業の効果検証

モデル授業の効果検証に際しては、モデル授業の取組前（事前）と取組後（事後）に、以下の共通項目を含めたアンケート調査（紙面）を行い、その結果を比較した。

		全く そう 思わない	あまり そう 思わない	やや そう 思う	非常に そう 思う
	→の方向に、それぞれ0を1つ				
ア	身近な地域のことをよく知っている	1	2	3	4
イ	身近な地域のこと好きだ・愛着がある	1	2	3	4
ウ	国内や海外を旅行して観光をしてみたい	1	2	3	4
エ	地域の観光資源に興味・関心がある	1	2	3	4
オ	社会科が好きだ・得意だ	1	2	3	4
カ	外国語（英語など）が好きだ・得意だ	1	2	3	4
キ	地域で問題になっていることに興味・関心がある	1	2	3	4
ク	地域で問題になっていることを解決するために行動したい	1	2	3	4
ケ	「観光」に関する仕事がどのようなものか知っている	1	2	3	4
コ	将来、「観光」に関わる勉強をしてみたい	1	2	3	4
サ	将来、「観光」に関わる仕事をしてみたい	1	2	3	4

事前アンケートと事後アンケートの共通項目のアンケート結果は以下のとおり。

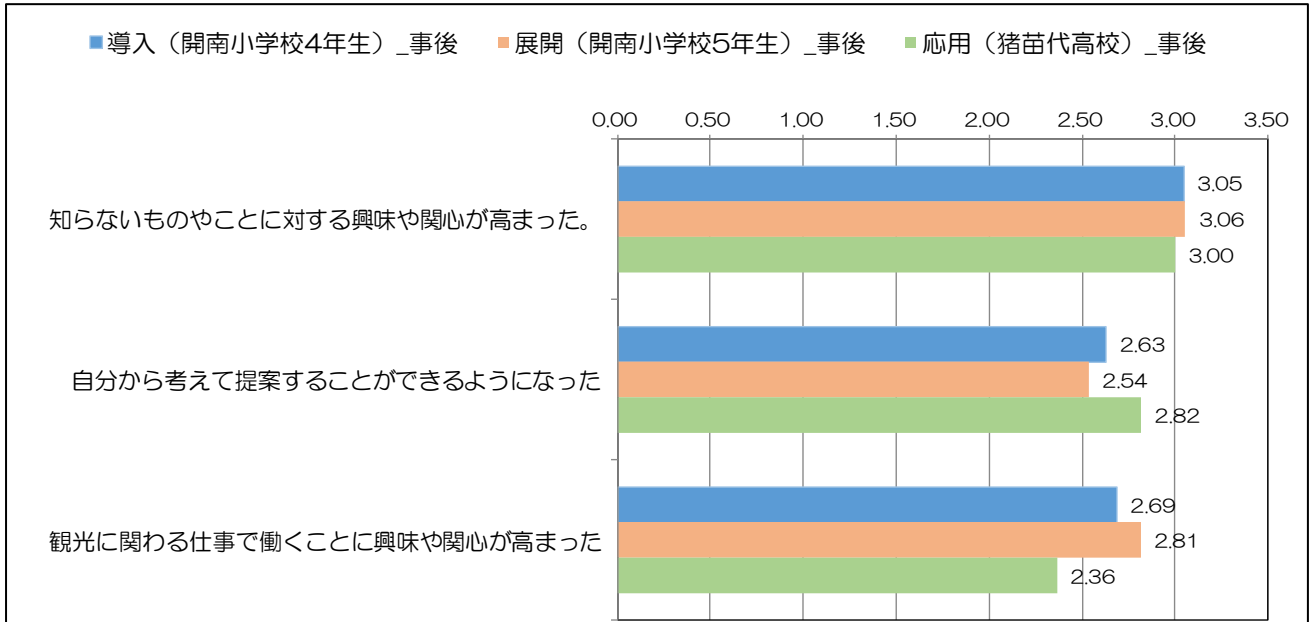
- 導入、展開、応用編のいずれも、身近な地域の理解や観光に関する仕事の理解が進んだ。
- 展開編では、地域の観光資源への興味、地域で課題になっていることを解決するための行動意欲、将来「観光」に関わる勉強や仕事をする意欲が高まった。
- 外国人へのインタビュー調査を行った展開編、応用編では、いずれも外国語（英語など）への好意度や得意意識が高まった。
- 一方、就業体験をした応用編で、将来「観光」に関わる仕事をする意欲は伸びなかった。



※数値は、「全くそう思わない：1点、あまりそう思わない：2点、ややそう思う：3点、非常にそう思う：4点」の回答者の平均値

また、事後アンケートにおいて、以下の項目について質問を行った。

- 導入編、展開編、応用編のいずれも、「知らないものやことに対する興味や関心が高まった」について、平均 3.0 以上と、ポジティブな選択肢が多い数値であった。
- 応用編で、「自ら考えて提案することができるようになった」が比較的高く、一方で「観光に関わる仕事で働くことに興味や関心が高まった」が比較的低かった。



※数値は、「全くそう思わない：1点、あまりそう思わない：2点、ややそう思う：3点、非常にそう思う：4点」の回答者の平均値

これら結果から、2017年度のモデル授業案で仮説として挙げた観光教育の効果ごとに、以下のよう結果を整理した。

効果の仮説		導入編	展開編	応用編
ア	身近な地域のことをよく知っている	○	○	○
イ	身近な地域のこと好きだ・愛着がある	△	△	×
ウ	国内や海外を旅行して観光をしてみたい	×	○	×
エ	地域の観光資源に興味・関心がある	○	○	×
オ	社会科が好きだ・得意だ	○	○	×
カ	外国語(英語など)が好きだ・得意だ	×	○	○
キ	地域で問題になっていることに興味・関心がある	×	○	×
ク	地域で問題になっていることを解決するために行動したい	×	○	×
ケ	「観光」に関する仕事がどのようなものか知っている	○	○	○
コ	将来、「観光」に関わる勉強をしてみたい	○	○	×
サ	将来、「観光」に関わる仕事をしてみたい	△	○	×

※○：効果がみられた、△：やや効果がみられた、×：効果がみられなかった

その他に、観光教育に取り組んだ児童・生徒から、以下の自由意見が挙がった。

対象	自由意見
<p>【導入編】 那覇市立 開南小学校 4年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光学習を受けて、自分の<u>地域のことがいろいろ分かった</u> ・ 観光に関わる仕事や名所、食べ物等のことをたくさん知ることができた。 ・ <u>調べる事の楽しさと、分からないことが分かった時の嬉しさを実感できた。</u> ・ <u>観光資源は海ぐらいかと思っていたが、沖縄の様々な魅力について知ることができた。</u> ・ <u>またこんな授業を受けてみたい。沖縄の観光だけでなく、他の地域も深めていきたい。</u> ・ <u>パンフレット作りがとても楽しかった。観光の授業はとても楽しく好きになった。</u> ・ <u>観光の仕事は大変だと思ったが、てるきなさん（外部講師）のように英語が話せるのはかっこいいと思った。</u>
<p>【展開編】 那覇市立 開南小学校 5年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>観光はいいな</u>と思った ・ <u>観光の授業は楽しい。他の国の事も気になりはじめた。他校にも広まってほしい</u>と思ったぜひまたやりたい。 ・ <u>観光について、4年生の時よりも知ることができてよかった。6年生になったらもっと知りたい。</u> ・ <u>新たな発見がたくさんあった。観光客が何を楽しみに沖縄に来ているか、初めて気づいたこともあった。</u> ・ <u>海外の国の知らないことや、国内の困ったことなど、立場になって考えることができるようになった。あと、少しリアクションが大きくなった。</u> ・ <u>インタビューしたことで、日本人や外国人の方が沖縄で楽しみにしていることや、どこが楽しいと思ったのか知ることができた。</u>とても楽しく、嬉しく思った。 ・ <u>ポスターづくりも、グループでのインタビューも楽しかった。こんなに多くの観光のことを知ることができてよい刺激になった。</u> ・ <u>知らない人に対して明るく接するのは難しいが、観光に関する仕事をしている人はしっかりやっていてすごいと思った。</u> ・ <u>観光の仕事は、外国人など観光客に喜んでもらえる仕事でとても楽しそう。</u>
<p>【応用編】 福島県立 猪苗代高校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>観光とは何か、あらためて考えることができた</u> ・ <u>外国人観光客へのインタビューでは、実際に接してみて、コミュニケーションをとるのはとても大変だと気づいた。今後の学習内容を見直していきたい。</u> ・ <u>非常に貴重な体験をさせていただいた。今後の生活で活かせることがたくさんあると思う。</u> ・ <u>猪苗代にはまだまだ解決しなくてはいけない課題がある</u>と思った ・ <u>猪苗代の未来や、環境の変化も予測して、対策などをとっていけるようにしたい。</u> ・ <u>デュアルシステム、ホテルでの宿泊など、初対面の人との交流が楽しかった。</u> ・ <u>デュアルシステムをやってみて、社会人になるのが少々不安</u>に感じた。

さらに、観光教育の実践を担った教諭より、以下のように、観光教育に取り組んだ感想があった。

学校名	感想
<p>那覇市立開南小学校 教諭 喜屋武 氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> 本校の子どもたちは、国際通りという観光客が多く集まる地域に住んでおり、普段から観光と身近に接している。<u>将来、観光に携わる職業あるいは何かしら観光に関わって沖縄の産業を支えていく子どもも少なくない</u>と思うので、その素養のきっかけになればと考えている。また、子どもたちが<u>将来、旅行や仕事で別の地域に行ったときに見る目も変わってくる</u>と思う。
<p>那覇市立開南小学校 教諭 豊里 氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今までは教諭側が、「これをしてください。あれをしてください。」ということが多かったが、今回は子どもたちから「先生、予想と違ったよ」「ここの項目（沖縄に来る目的）が少なかったから、もっといっぱい伝えたいな」という声が聞こえてきた。<u>子どもたちなりに「これをしたい、あれをしたい」がどんどん出てきているのは、学びになっていると思う。地元的那覇市に、沖縄に、さらに興味を持ってきている。</u>また、「ここにも実は観光客っていたんだね」と、<u>観光客に目を向けるようになり、これまでなかった新しい気づきがあり、子どもたちの変化や成長を感じる。</u>
<p>福島県立猪苗代高校 教諭 佐藤 氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> 自ら観光客の立場で考察する機会として、修学旅行を活用した。<u>観光客としての実体験により得られる新たな気づき</u>があり、“<u>活きた学習</u>”を実践することができた。また、<u>外国人観光客とのコミュニケーション</u>は生徒の学習活動への刺激となったようだ。
<p>福島県立猪苗代高校 教諭 熊田 氏</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今回のような<u>実践的・体験的な授業は、生徒にとって大変有意義であった</u>と思う。また<u>教える側にとっても、従前のカリキュラムを改めて検証する良い機会</u>となった。

③モデル授業のブラッシュアップ

モデル授業の効果検証の結果を踏まえ、2017年度に構築したモデル授業のブラッシュアップの方向性について、以下のように考察した。

方向性	内容
<p>【導入編】 <u>観光教育の考え方等に関する基礎的かつ一般的な教材</u>を活用すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 導入編でまず行う観光教育に関する座学において、沖縄県の副読本のように、観光教育の考え方等に関するベースとなる教材が必要となる。それをゼロから学校や教諭が準備するのは困難を伴う。 上記の教材は、必ずしも特定の地域に固有の内容とする必要はないため、今後、観光教育の基礎的な教材として、一般的に活用できる教材の開発が必要となる。 一方で、観光の切り口で取り上げられる題材は、時事やビッグデータ等、手間をかけずとも得られることも多い。探究活動において、児童、生徒の学習意欲を刺激し、自主的な取り組みを促す動機付けとなる題材を提供できるとよい。
<p>【展開編】 <u>将来「観光」に関わる勉強や仕事の意欲を高める好機がある</u>ため、その機会を活用すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 展開編において、将来「観光」に関わる勉強や意欲を高める機会があることが窺えた。導入編では、座学中心のため、地域の理解等は向上するが、勉強や就業意欲まで至るには距離感がある。一方、応用編では、実際に観光産業の体験をすることで、その厳しさや現実を知り、意欲が減退することもありえる。 そのため、展開編の段階において、将来「観光」に何らかの形で関わるモチベーション向上を行うことが重要である。
<p>【応用編】 <u>地域関係者への営業活動において、先生等による下準備や外部ネットワークの活用</u>を図ること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地域観光産業における就業体験やビジネス課題の解決に取り組む際、児童・生徒が地域関係者と交渉すること自体も価値があるが、単純労働や一過性のイベントに終わらせず、観光教育の目的に合った学び多い機会が得られるように、教諭や関係者等によるしっかりとした下準備や調整が重要である。 上記の際、新規に地域関係者と学校が関係を築くのは難易度が高いため、まずは以前からあるネットワークや機会が活用できないかを検討すべきである。
<p>【各編共通】 <u>授業の中に積極的にフィールドワークや外部講師の活用</u>を取り入れ、児童・生徒の好奇心を刺激する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワーク、特に外国人を対象としたインタビュー調査等が児童、生徒の意欲を駆り立てる。 訪日外国人が多く訪れる地域では、外国人等へのインタビュー調査等により、外国語の習得意欲や地域課題への取組意欲の向上に寄与することが期待できる。 訪日外国人があまり訪れない地域では、修学旅行時にフィールドワークを実施する等の対策案もあり、地域事情に応じた対策を検討したり、別のテーマでフィールドワークを取り入れることを検討すべき。 外部講師による座学も児童、生徒の好奇心を刺激するのに好影響であり、フィールドワークを組む余裕がない場合に活用するのがよい。

(4) 成果報告会の開催

モデル授業の実践の成果について、以下のとおり、2019年3月13日に観光庁主催行事（後援：文部科学省、経済産業省、公益社団法人日本観光振興協会）「観光教育シンポジウム」において、それぞれの実践校の教諭から報告があった。

(シンポジウムのチラシ)



観光庁主催
文部科学省・経済産業省・公益社団法人日本観光振興協会 後援
観光教育シンポジウム開催

明日の 日本を担う 子どもたちへ 観光教育の普及にむけて

観光庁では、子どもたちが地域の魅力的な観光資源を理解し、愛着と誇りを持ち、さらにその魅力を発信できることをねらいとした学び、「観光教育」の充実と普及に取り組んでいます。この度、モデル授業の実証に関わった2校の成果報告と有識者によるパネルディスカッションを通じて観光教育について皆さんと考える機会といたし、シンポジウムを開催します。さらに、教育現場において観光教育を実践する上で求められる知見や、得られる効果について、分かりやすくご紹介する動画「観光教育ノススメ」を、全国公開前にいち早く上映する予定です。観光教育は、社会に開かれた学びや主体的・対話的で深い学びの効果を子どもたちに提供できる可能性にあふれています。すでに取り組まれている先生方ももちろん、やり方や進め方が分からない、時間がない等のお悩みを持った先生方、自治体関係者の方、教育への関心が高い一般読者の方まで、広くご来場をお待ちしております。

日時 ▶ 2019年3月13日(水) 18:30開会 (18:00開場)
場所 ▶ 朝日新聞東京本社 本館2階 読者ホール 東京都中央区築地5-3-2
定員 ▶ 100名 参加無料 事前申込制

お問い合わせ
「観光教育シンポジウム事務局」 TEL 03-5540-7578(平日10:00~17:00) MAIL kanko-kyoiku@asahi.com

プログラム(予定)

18:30 ▶ 開会
18:35~18:40 ▶ 主催者挨拶「観光教育の可能性」
(登壇者) ▶ 観光庁観光政策課 観光人材政策室 課長補佐(統括) 田口壮一

18:40~19:00 ▶ モデル授業取組結果発表
(登壇者) ▶ 沖縄県豊原市立開南小学校教諭 喜屋武仁氏
▶ 福島県立猪苗代高等学校教諭 熊田厚志氏

19:00~19:10 ▶ 授業指導案勉強会報告
(登壇者) ▶ 東京学芸大学大学院 教育学研究科 古野香織氏

19:10~19:35 ▶ 観光教育普及啓発動画「観光教育ノススメ」上映
19:35~20:15 ▶ パネルディスカッション「観光教育の普及加速化にむけて」
(登壇者) ▶ 立教大学名誉教授 村上和夫氏
▶ 玉川大学教授 寺本潔氏
▶ 京都文教大学准教授 澤達大氏
▶ 文部科学省教科調査官 西村修一氏
▶ JTB露が岡事業部 マネージャー 高知尾昌行氏

20:20 ▶ 閉会

パネルディスカッション登壇者略歴

- 立教新座中学校・高等学校 校長/立教大学 名誉教授 (観光学)
村上和夫
主な研究テーマは、ポストモダンツーリズム、観光事業論、みやげ物分析、旅行経験者説分析。
- 玉川大学 教育学部 教育学科 教授
寺本潔
1956年熊本県生まれ。筑波大学大学院修了。筑波大学付属小学校教諭を経て愛知教育大学地理学教室にて助手、助教授、教授と25年間勤務。2009年より玉川大学教育学部教授、日本社会科教育学会や日本地理教育学会の評議員。
- 京都文教大学 総合社会学部 総合社会学科准教授
澤達大
社会科教育(地理歴史科、公民科)、教材開発、教員養成を研究テーマとする。知的好奇心や探求力が育生える教材開発と、学びの過程を大事にする指導方法を研究し、興味や好奇心が学力に育く 授業を学生と共に探索している。
- 文部科学省初等中等教育局参事官(高等学校担当)/付属教育振興室 教科調査官
西村修一
北海道立高等学校教諭、北海道教育委員会指導主事を経て、現在文部科学省で高等学校の教科商業科担当の教科調査官として、高等学校学習指導要領の改訂を担当。
- 株式会社JTB露が岡事業部 マネージャー
高知尾昌行
1996年入社以来約10年間横浜市内の公立中学校修学旅行営業を担当。2008年JTB首都圏本社交流事業推進室の創設時に専任し、営業推進本部、露が岡事業部と組織改編され現在に至る。2015年以降はJTBグループのリソースを活用した中央省庁とのパートナーシップを目指し、官公庁と対象としたJTBグループの「地域交流事業」拡大と社会課題解決に資するビジネスモデルの開発に取り組む。

(発表の様子：左・開南小学校 右・猪苗代高校)



まず、福島県立猪苗代高校の発表内容は以下のとおり。

- テーマを「地元観光地が抱える課題と効果的な観光客誘致の方法」と設定。フィールドワークや企業実習を通じて、地元観光地やおもてなしについての理解を深めながら、生徒の課題解決能力を育成したいと考えた。そこで、修学旅行先をフィールドワークの場にし、比較検討することで、地元観光地の魅力や課題に気づき、解決策を考えることを目指した。
- 生徒たちはまず、インターネットを使って修学旅行先の観光地について調べ学習を行った。その後、地元旅館、ホテルでの企業実習や、地元観光地での自然散策のフィールドワークを行った。宿泊施設での実習では、おもてなしの知識や技術の理解がやや不十分だったのが次回以降の改善点としてあげられる。
- 修学旅行先の京都と大阪では、外国人観光客に対し「印象に残った観光地」についてヒアリングを行った。さらに、猪苗代町の代表的な観光スポットの写真を見せ、「行ってみたい」と思う場所にマークしてもらった。
- 修学旅行から戻った後は、地元観光地が抱える課題についてグループで討議。これまで学んだことや調べたことをふまえて、観光客誘致の方法を考察した。
- 外部講師を招き、他の地域の「地域活性化策」の紹介と効果的なプレゼンテーション方法について講義を受けた。
- 最後に、全校生徒の前で今回の学習の最終報告を発表した。

(担当教諭の結び)

- 地元の観光資源に対する生徒の理解が確実に深まった。
- 観光客へのヒアリングで1番に選ばれたのがあまりメジャーではない場所で、生徒たちは驚いていた。また、外国人観光客とのコミュニケーションはとても刺激的だったようだ。
- 生徒たちはグループワークにも慣れ、グループ内での役割分担や意見交換も活発に行われた。周囲と協力し課題解決に向けて主体的に取り組み、自分たちなりに解決策を導き出せるようになった。



報告内容

1. 本校の概要
2. モデル授業の実践
 - ・ 修学旅行先の下調べ学習（授業①）
 - ・ 地元観光地でのフィールドワーク(授業②)
 - ・ 地元旅館・ホテルでの企業実習
 - ・ 修学旅行先でのフィールドワーク
 - ・ 地元観光地の魅力と課題についての考察(授業④⑤)
 - ・ 研究成果報告会の実施
3. 成果と今後の課題

1. 本校の概要



校舎外観



猪苗代湖と磐梯山

福島県立猪苗代高等学校

設立 1948年
設置学科 普通科
観光ビジネス科
生徒数 127名
教員数 28名



野口英世博士

観光ビジネス科の特色

1. 観光に関する授業
 - 1年・・・「観光Ⅰ」毎週火曜日3・4校時
 - 2年・・・「観光Ⅱ」毎週水曜日3・4校時
 - 3年・・・「観光実践」毎週月曜日2校時
金曜日3・4校時
2. デュアルシステム
 - 1年・・・ホテル研修（2泊3日）
 - 2年・・・旅館・ホテルにおける企業実習（5日間）
 - 3年・・・希望する職種での企業実習（5日間）
3. 学習発表会
 - 一年間の学習・実習の成果を学校内外に向けて発表
 - ※平成28年度より普通科の生徒も参加

1 取り組み内容（テーマ）

「地元観光地が抱える課題と効果的な観光客誘致の検討」

2 期待する成果

- ① 地元観光資源に対する理解の深化
- ② 宿泊施設の“おもてなし”の知識・技術の理解
- ③ 課題解決能力の育成

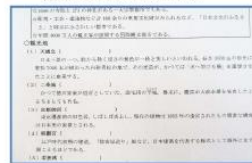
授業① 修学旅行の下調べ学習（平成30年10月16日）

取組の概要



観光ビジネス科2年2組

- ・ インタネットを利用した修学旅行先の調べ学習
- ・ 配布したプリントを参考に、観光地・文化財等を個別にまとめる



穴埋めプリント



授業② 地元観光地のフィールドワーク (平成30年10月31日)

取組の概要



福島県自然保護協会理事 横田清美氏

- ・外部講師の案内による裏磐梯中瀬沼周辺での自然散策
- ・裏磐梯の自然環境の現状に関する講義



裏磐梯中瀬沼



沼周辺の散策の様子

授業② 地元観光地のフィールドワーク (平成30年10月31日)



裏磐梯ビジターセンター



センター内での講義



特定外来種 ウチダザリガニ



特定外来種 オオハンゴンソウ

地元旅館・ホテルでの企業実習 (平成30年10月23日～29日)



フロント業務



ベッドメイキング



配膳業務



客室清掃

授修学旅行先でのフィールドワーク (平成30年11月19～22日)

取組の概要

- ・大阪・京都における外国人観光客へのヒアリング
- ・観光地・宿泊場所の“おもてなし”に関する調査



大阪・アメリカ村でのヒアリング



大阪・道頓堀でのヒアリング



宿泊先のホテルにて



授業③ 地元観光地の魅力と課題についての考察 (平成30年11月28日)

取組の概要

- ・グループワークで地元観光地の魅力と抱える課題についての話し合う
- ・授業の最後にとりまとめた意見をグループごとに発表する



グループワークでの意見交換



KJ法による意見集約



グループごとの発表

授業④ 観光客誘致の効果的な方法についての考察1 (平成30年12月12日)



活発な意見交換



生徒主体の活動が見られた

取組の概要

・前時の授業の内容をふまえ、グループワークで観光客誘致の効果的な方法についてまとめる。
 ・授業の最後にとりまとめた意見をグループごとに発表する



グループごとの発表

授研究成果についての中間報告 (平成30年12月18日)

取組の概要

・校内学習発表会において、研究内容の中間報告を実施
 ・これまでの学習の経緯と、見えてきた課題についてのプレゼンテーションを実施



発表の様子



生徒のパフォーマンス



外部講師による講評

授業⑤ 観光客誘致の効果的な方法についての考察2 (平成31年1月16日)



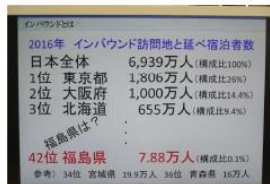
近畿日本ツーリスト支店長 櫻井寛也氏



講義の様子

取組の概要

・外部講師による、他地域の地域活性化策の講義
 ・効果的なプレゼンテーションについての講義と実践



櫻井氏のプレゼン資料

モデル授業実践の成果と課題

<成果>

- **地元観光資源に対する理解の深化**
 地域環境や観光客減少の課題等の問題意識も強化
- **課題解決能力の向上**
 主体的に課題に取り組む姿勢、周囲と協力し解決に向かう態度
- **コミュニケーション能力・プレゼン力の向上**
 生徒の主体性・積極性も増し、クラス全体のまとまりも...

<課題>

- **“おもてなし”の知識・技術の理解について**
 宿泊施設における、ホスピタリティの面についての学習
 企業実習の内容の検討も必要では？
- **次年度の授業内容の検討**
 「猪苗代町観光プラン」の作成
 今年度の成果を生かし、いかに生徒の職業観を高めるか

授研究成果についての成果報告 (平成31年2月21日)



発表の様子



生徒質疑・応答

取組の概要

・観光ビジネス科研究発表会においての研修成果の最終報告



京都文教大学 澤達大先生

次に、那覇市立開南小学校の発表内容は以下のとおり。

- 導入部では、沖縄県が発行した観光学習教材などを利用して沖縄観光の現状を学んだ。
- フィールドワークでは、観光客にインタビューし、「歴史」「行事」「芸能」「買い物」「自然」「食べ物」の6つのカテゴリーから「沖縄に着た目的」について調査。
3割の観光客は海外からなので、事前に外国語の時間を使って質問の仕方を練習した。
見守り活動を行った保護者からは、「観光客から勇気と自信をもらった」「子どもが自信を持って話しかけていた」「地元で誇りをもてた」など、今回の学習に好意的な意見が多く寄せられた。
- 沖縄の観光業を牽引している沖縄観光コンベンションビューローの職員と県内大手ホテルチェーンの社員を招き、最新の沖縄観光の動向や沖縄の魅力、観光客に喜ばれる接客などについての講演を聴講。ホテルマンの立ち居振る舞いや、朗らかな表情に感心する児童もあり、観光業に対する理解を深めることができた。
- 最後に学習のまとめとして、これまで学んだことを生かし、沖縄観光のポスターやPR動画を制作した。
- 4年生では、社会科の地域学習と連携し、観光教育を実践した。沖縄本島を北部、中部、南部に分け、それぞれのエリアの魅力について「自然」「食べ物」「歴史」「生活文化」「施設」「イベント」の6つの視点で調べ学習を行い、沖縄をPRするパンフレットを作成した。

(担当教諭の結び)

- 観光客と実際にコミュニケーションを図ることで、沖縄の良さを知るという本来の目標に迫れたことはもちろん、人と人との関わる社会生活の根本を学べた。
- 外国人との意思疎通の成功体験を得られたこと、現場で実際に取材することの大切さを感じたことも大きな収穫だった。
- 観光教育は単なる地域理解や職業教育ではなく、さまざまな分野に関わることが多い。体験的な活動を取り入れることで、子どもたちの思考力や判断力、表現力が高められる学びである。今後も実践を重ねていきたい。

沖縄・開南小の観光学習



本校の校区



学習計画

- ・ 沖縄観光について知ろう
- ・ 観光客はどのように情報を得ているのだろう
- ・ 学習計画を立てよう
- ・ 観光の目的を調べるには
- ・ インタビューの仕方を考えよう
- ・ 英語でインタビューをしよう
- ・ 国際通りで聞き取り調査をしよう
- ・ 調べたことをまとめよう
- ・ 沖縄観光の魅力について聞こう
- ・ 香港の小学生と交流しよう
- ・ 調べたことを発表しよう
- ・ 沖縄観光の魅力をポスターにしよう
- ・ CMを作ろう

観光学習教材



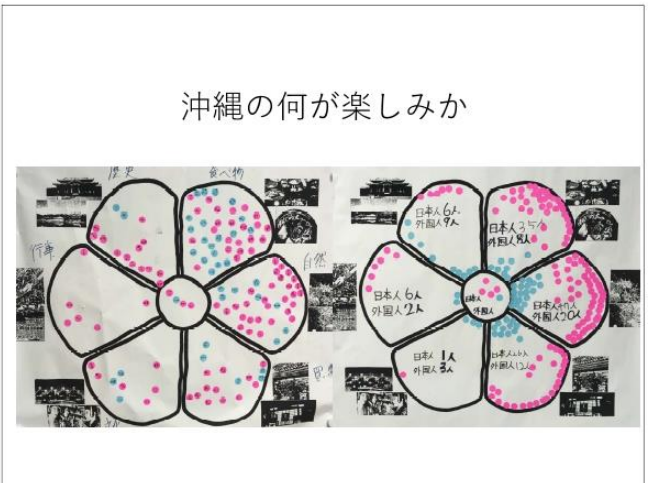
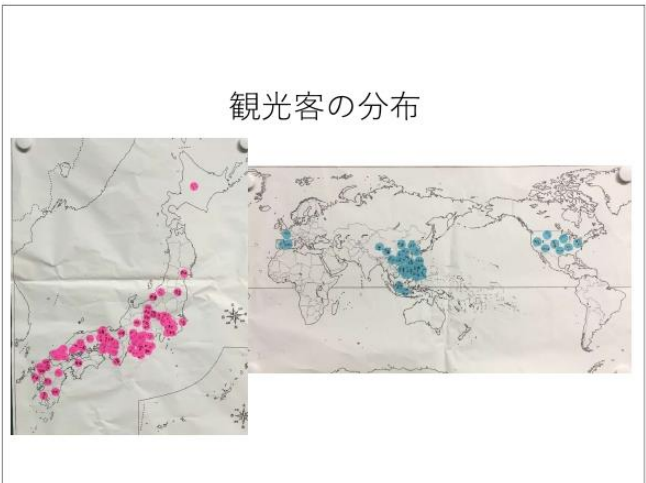
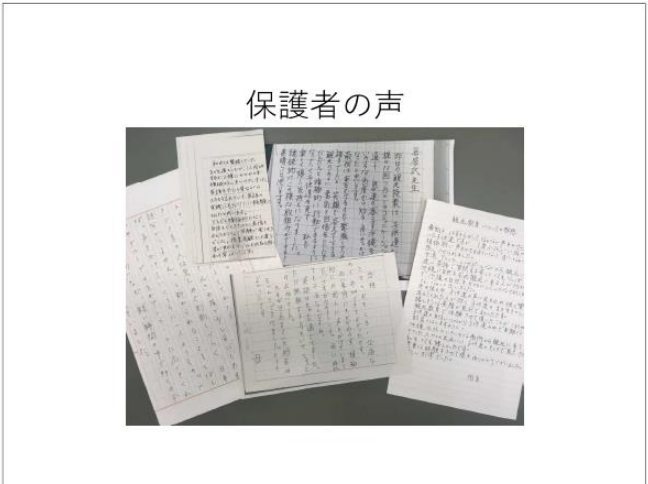
(出典)「沖縄県「めんそーれ」沖縄観光学習教材 第11版」(沖縄県、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー)

沖縄の魅力を分類する



外国人にたずねる

Excuse me? (すみません)
 We are elementary school students in Naha.
 (私たちは那覇市の小学生です)
 May I ask some question? (いくつか質問してもいいですか)
 Where are you from? (どちらから来ましたか)
 What do you want to enjoy in Okinawa?
 (沖縄で何を楽しみたいですか)
 Please put this sticker on this board. (このシールをボードに貼ってください)
 Oh, I see. Have a nice day! (なるほど、よい一日を)



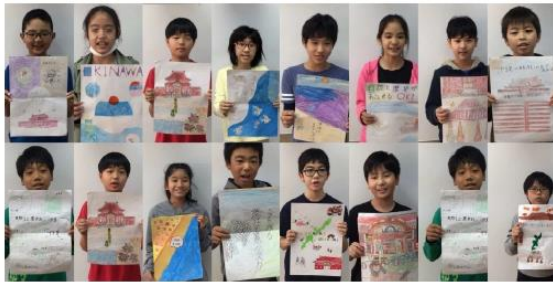
外部講師の話



香港小学生との交流



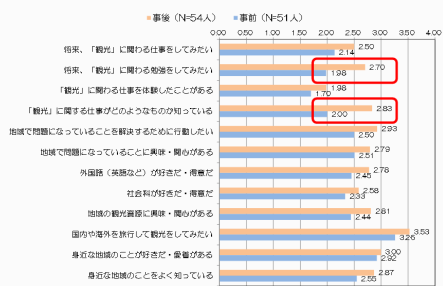
沖縄のCMを作る



4学年の実践



実践後の変化



※5年1組、5年2組を対象に、観光教育の実施前(2018年12月)、実施後(2019年3月)にアンケートを実施
 ※上記数値は、「1.全くそう思わない」、「2.あまりそう思わない」、「3.ややそう思う」、「4.非常にそう思う」の回答結果の平均値

実践を振り返って

- ・ 沖縄のよさの再発見
- ・ 人との関わり方
- ・ コミュニケーションの成功体験
- ・ 語学学習への動機付け

観光教育→さまざまな分野との関わり
 ↓
 思考力、判断力、表現力の高まりが期待

(5) モデル授業の実践事例集のとりまとめ及び普及に向けた効果的な情報発信（広報）

モデル授業の実践結果について、観光庁が作成した観光教育の普及・啓発のための動画「観光教育ノススメ」において紹介があり、以下のとおり、その動画が2019年3月19日に観光庁HPにて公表された。

ご意見箱 サイトマップ English 中文简体 中文繁体 한국어
文字の大きさ 標準 拡大 音声読み上げ/ルビ振り

観光について 政策について 委員会・審議会等 統計情報・白書 予算・調達情報 報道

[観光庁ホーム](#) > [政策について](#) > [観光産業](#) > 観光教育の普及に向けて

観光教育の普及に向けて

最終更新日：2019年3月19日

初等中等教育段階の子どもたちが、観光が果たす役割や日本各地の魅力的な観光資源を理解し、郷土への愛着と誇りを持ち、その魅力を発信する力を育む観光教育の普及を図ります。観光庁では、観光教育の重要性や効果についての啓発を行うとともに、総合的な学習の時間等を想定したモデル授業の検証やコンテンツの制作等を通して、観光教育の導入支援に努めています。

1. 平成30年度事業

モデル授業の検証

平成29年度に構築した総合的な学習の時間等を想定した「観光教育のモデル授業」の実践校を、広く全国から募集し、専門家のアドバイスを取り入れながらカリキュラムや指導案の検証と磨き上げを行います。

観光教育のコンテンツ制作

観光教育は、「社会に開かれた学び」や「主体的・対話的で深い学び」の効果が期待できる教育です。実践する上でご参考いただける知見や具体的な進め方等について、分かりやすくまとめた動画が完成しました。すでに取り組まれている先生方はもちろん、やり方や進め方が分からない、時間がない等の悩みを持った先生方、ぜひご視聴ください。

[動画『観光教育ノススメ』](#)

2. 過去の事業

観光教育に関する調査事業（平成29年度）

本事業では、観光教育の充実化を図るべく、国内外の小中等高等学校等における観光教育の現状について調査を行いました。

具体的には、国内外の先進事例（国内10事例・海外3事例）を収集し、観光教育を進める上でのポイントを整理するとともに、その効果の検証を行いました。

さらに、専門家の意見も取り入れながら、国内における観光教育の推進に資するモデル授業案を段階別に3パターン構築しました。（[1]導入編、[2]展開編、[3]応用編）

- 「観光教育に関する調査」事業報告
[すべてのページ](#) [PDF：3279KB]
- 抜粋
[国内10事例紹介](#) [PDF：2590KB]
[海外3事例紹介](#) [PDF：1245KB]
[モデル授業構築について](#) [PDF：319KB]

モデル授業案（ガイドライン）

[\[1\]導入](#) [\[2\]展開](#) [\[3\]応用](#) [PDF：271KB]

このページに関するお問い合わせ

観光庁観光産業課
谷川、佐藤
代表 03-5253-8111（内線27336）

観光庁 [\[アクセス・地図\]](#) [ご質問・使い方](#) | [サイトポリシー](#) | [著作権・リンク](#)、[免責事項](#)について

住所：〒100-8918 東京都千代田区霞が関2-1-2
電話：03-5253-8111（国土交通省代表）

Copyright © Japan Tourism Agency. All Rights Reserved.

また、観光庁により、以下のとおり、観光教育の普及・啓発のための新聞広告記事が、2019年3月22日付の朝日新聞、3月25日付の日本教育新聞にそれぞれ掲載された。

観光庁による「観光教育」の普及・啓発のための新聞広告記事

小中学校・高等学校に広がる「観光教育」

観光庁では、子どもたちが日本各地の魅力的な観光資源を理解し、郷土への愛着と誇りを持ち、その魅力を発信できる力を育む「観光教育」の普及に取り組んでいます。

主体的・対話的で深い学びにつながる観光教育

観光教育は、社会の状況や変化に目を向け、地域との接点を持ちながら学ぶ「社会に開かれた教育課程」を実現し、実践的な取り組みのなかで子どもたちの視野を広げ、地域への関心を高めます。また、教科間の相互連携やICTを活用した情報収集などによる学習効果が期待でき、主体的・対話的で深い学びにつながる、可能性にあふれた教育です。

いっそう国際化する社会を生きる子どもたちへ

日本政府は、訪日外国人旅行者数を2030年に6000万人とする目標を掲げ、「住んでよし、訪れてよし」の観光先進国を目指しています。地域経済の発展をリードし、国際平和の維持に大きく貢献する観光。これからいっそう国際化する社会を生き、次代を担う子どもたちに、観光が果たす役割を伝えるとともに、持続可能な観光という視点を取り入れた多面的・立体的な学びが求められます。

今年度の勉強会・シンポジウムに参加した教育関係者の声

- 観光教育についても特別な知識や準備が必要ではなく、他教科と関連付けて「観光で学ぼう」の考えが広がった。それなら、すぐに実践したい。
- 観光は児童生徒の知的好奇心を刺激し、楽しく学習できるテーマ。教える側も創意工夫しながらの準備は楽しい。
- 総合学習でSDGsに関する探究活動に取り組んでいる。観光について、どのように有機的に結びつけるか、検討してみたいと思う。

観光庁の取り組み

2017年度…先進事例調査、モデル授業(ガイドライン)開発
2018年度…モデル授業の検証、普及啓発動画制作、指導要領改訂会・シンポジウム開催

観光教育に関する観光庁の事業については、ウェブサイトでも詳しく紹介しています。
観光庁 観光教育 検索

観光教育を進めるうえで参考になる知見や指導方法をまとめた動画ができました!
<https://www.youtube.com/watch?v=yj12VXV6n1U>
観光教育普及啓発動画「観光教育」シリーズ

国土交通省 観光庁
▶観光庁「観光教育の普及に向けて」
http://www.mlit.go.jp/kankochou/shisaku/sangyou/kyoiku_juujitsu.html

H31.3.22 朝日新聞 29面

やすい!
詰まった一冊!

上ポイント

日常の授業で取り組む学力向上
→ 文部科学省「観光教育」の活用ポイント
→ 観光教育の活用ポイント

Amazonでもご購入いただけます Amazon.co.jp

日常の授業で取り組む学力向上

小中学校・高等学校に広がる「観光教育」

観光庁では、子どもたちが日本各地の魅力的な観光資源を理解し、郷土への愛着と誇りを持ち、その魅力を発信できる力を育む「観光教育」の普及に取り組んでいます。

● 主体的・対話的で深い学びにつながる観光教育

観光教育は、社会の状況や変化に目を向け、地域との接点を持ちながら学ぶ「社会に開かれた教育課程」を実現し、実践的な取り組みのなかで子どもたちの視野を広げ、地域への関心を高めます。また、教科間の相互連携やICTを活用した情報収集などによる学習効果が期待でき、主体的・対話的で深い学びにつながる、可能性にあふれた教育です。

● いっそう国際化する社会を生きる子どもたちへ

日本政府は、訪日外国人旅行者数を2030年に6000万人とする目標を掲げ、「住んでよし、訪れてよし」の観光先進国を目指しています。地域経済の発展をリードし、国際平和の維持に大きく貢献する観光。これからいっそう国際化する社会を生き、次代を担う子どもたちに、観光が果たす役割を伝えるとともに、持続可能な観光という視点を取り入れた多面的・立体的な学びが求められます。

今年度の勉強会・シンポジウムに参加した教育関係者の声

- 観光教育についても特別な知識や準備が必要ではなく、他教科と関連付けて「観光で学ぼう」の考えが広がった。それなら、すぐに実践したい。
- 観光は児童生徒の知的好奇心を刺激し、楽しく学習できるテーマ。教える側も創意工夫しながらの準備は楽しい。
- 総合学習でSDGsに関する探究活動に取り組んでいる。観光について、どのように有機的に結びつけるか、検討してみたいと思う。

観光庁の取り組み

2017年度…先進事例調査、モデル授業(ガイドライン)開発
2018年度…モデル授業の検証、普及啓発動画制作、指導要領改訂会・シンポジウム開催

観光教育に関する観光庁の事業については、ウェブサイトでも詳しく紹介しています。
観光教育を進めるうえで参考になる知見や指導方法をまとめた動画も掲載できます。ぜひアクセス!

▶観光庁「観光教育の普及に向けて」
http://www.mlit.go.jp/kankochou/shisaku/sangyou/kyoiku_juujitsu.html

観光庁 観光教育 検索

H31.3.25 日本教育新聞 8面

3. まとめ

今年度、観光教育のモデル授業の実践校として選定された福島県立猪苗代高等学校、那覇市立開南小学校の取組を通して、2017年度に構築した「モデル授業案」の効果検証を行うことができた。その結果、おおむね問題なく教育現場での実践が可能であることが確認でき、観光教育のねらいも達成された。

一方で、今回モデル授業の実践校として選ばれた学校は、観光教育のプログラムが元々組みまわたり、使いやすい観光教育の副読本があったことや、今回モデル授業ということで、有識者による支援があったため、導入編における授業作りについてさほどの困難が生じなかったものの、新たに観光教育に取り組む学校においては、観光教育に関する基礎的な情報や資料、具体的な指導案例等をすぐに利活用できるような補助、コンテンツの整理が求められることがわかった。

また、今回のモデル授業の実践において、フィールドワークや外部講師の活用といった、学校外の活動が児童・生徒の好奇心の刺激となり、好影響が生じることがわかった。新しい学習指導要領のポイントの一つである「社会に開かれた教育課程」に取り組む一つの例として、観光教育が有効であることがわかった。

さらに、将来「観光」に関わる勉強や仕事の意欲を高めるタイミングとして、就業や就職に近い応用編の段階よりも、手前の展開編のほうが適している可能性が窺えた。応用編においても、地域関係者との調整や外部ネットワークの活用により、観光教育の目的に合致した機会を設けることが重要であることがわかった。

今後、今回のモデル授業の実践を通じてブラッシュアップしたモデル授業案や今回の実践例を参考とし、全国各地の学校において観光教育の取組が更に進むことを期待するところである。

最後に、今回、ご多用の中、短期間でモデル授業の実践に取り組んでいただいた福島県立猪苗代高等学校、那覇市立開南小学校の2校の児童・生徒、先生等の関係者、並びに両校を度々訪問し、指導に尽力いただいた玉川大学寺本教授、京都文教大学の澤准教授の両名に対し、改めて御礼申し上げます。

観光教育のモデル授業検証・普及事業

報告書

平成31年3月

国土交通省観光庁 観光産業課観光人材政策室

〔調査実施機関〕(株)日本能率協会総合研究所
東京都港区芝公園 3-1-22 電話：03-6435-6658
